

1996年度

ドイツ語学科シラバス

獨協大学

目次の見方

- ① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用と、1993年度以前入学者用とに分かれています。
- ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。

科目名の表記について

入学年度によって、科目名の異なる科目があります。

該当する入学年度は、科目名末尾のカッコ内に表示されています。表示がない場合は、入学年度による科目名の区別はありません。

正しい科目名で履修するよう、注意してください。自分の入学年度を対象としていない科目名での履修はできません。

履修上の特性がある科目名について

下記の3科目には、履修する上で制限があります。

これらを履修する際には、十分注意してください。

- ① 時事ドイツ語 (94年度以降)

時事ドイツ語 I (93年度以前) ……履修者上限 45名

” II

- ② 上級ドイツ語 (会話) (94年度以降)

独会話 (93年度以前)

- ③ 上級ドイツ語 (作文) (94年度以降)

独作文 (93年度以前)

……………96年度に限り、4年生と教職課程履修者に限り、
受講することができる。

目 次

1994年度以降入学者対象

— 学科共通科目 —

「ドイツ語部門」

総合ドイツ語Ⅲ	-----	各担当教員	-----	1
時事ドイツ語	1	金井 満	-----	2
"	2	木内 基実	-----	3
"	3	黒田 多美子	-----	4
"	4	古田 善文	-----	5
"	5	本多 喜三郎	-----	6
"	6	K. O. Beißwenger	-----	7
"	7	B. Ebert	-----	8
"	8	C. Jobst	-----	9
"	9	I. Szathmary	-----	10
"	10	H. J. Troll	-----	11
商業ドイツ語	-----	H. H. Gätke	-----	12
上級ドイツ語 (会話)	1	R. Briel	-----	13
"	2	B. Ebert	-----	14
"	3	U. 川村	-----	15
上級ドイツ語 (作文)	1	C. Jobst	-----	16
"	2	H. J. Troll	-----	17
通訳特殊演習	-----	(後期完結) 山路 朝彦	-----	18

「第二外国語部門」

英語Ⅲ—1	-----	石月 正伸	-----	19
"	2	児嶋 一男	-----	20
"	3	高松 節子	-----	21
"	4	飛田 ルミ	-----	22
英会話Ⅰ—1	-----	T. J. Fotos	-----	23
"	2	G. S. Gorman	-----	25
"	3	R. M. Payne	-----	27
"	4	J. M. Thurlow	-----	28
"	5, 6	L. Villeneuve	-----	29

— 学科専門科目 —

「Ⅰ 言語・文学」部門

ドイツ語学概論	-----	柿沼義孝	-----	31
ドイツ文学概論	-----	矢羽々 崇	-----	33
ドイツ語学各論	-----	G. Wienold	-----	35
ドイツ文学各論	-----	関 徹 雄	-----	37
ドイツ語講読 (語学) I-1	-----	岩崎英二郎	-----	39
" 2	-----	木内基実	-----	40
ドイツ語講読 (文学) I-1	-----	山路朝彦	-----	41
" 2	-----	B. Ebert	-----	42

「Ⅱ 思想・芸術」部門

ドイツ文化史概論	-----	山本 淳	-----	43
ドイツの思想	-----	松丸 壽雄	-----	45
ドイツの音楽	-----	近衛 秀健	-----	47
ドイツの美術	-----	片岡 啓治	-----	49
ドイツの演劇	-----	越部 暹	-----	51
ドイツ思想・芸術各論	-----	中島 悠爾	-----	53
ドイツ語講読 (思想) I-1	-----	船戸 満之	-----	55
" 2	-----	渡部 重美	-----	56
ドイツ語講読 (芸術) I-1	-----	酒井 府	-----	57
" 2	-----	K. O. Beißwenger	-----	58

「Ⅲ 歴史・社会」部門

ドイツ史概論	-----	黒田 多美子	-----	59
ドイツの歴史	-----	古田 善文	-----	61
ドイツの社会・事情	-----	H. H. Gähke	-----	63
ドイツの地誌・民俗	-----	杉山 好	-----	65
ドイツの政治・対外関係	-----	深谷 満雄	-----	67
ドイツの経済	-----	大島 通義	-----	69
ドイツの法律	-----	市川 須美子	-----	71
ドイツ語講読 (歴史) I-1	-----	鳥島 金郎	-----	73
" 2	-----	I. Albrecht	-----	74
ドイツ語講読 (社会) I-1	-----	大串 紀代子	-----	75
" 2	-----	本多 喜三郎	-----	76

目 次

1993年度以前入学者対象

「ドイツ語」部門

ドイツ語講読Ⅰー1	大 串 紀代子	7 5
" 2	木 内 基 実	4 0
" 3	酒 井 府	5 7
" 4	鳥 海 金 郎	7 3
" 5	船 戸 満 之	5 5
" 6	本 多 喜三郎	7 6
" 7	渡 部 重 美	5 6
" 8	I. Albrecht	7 4
" 9	K. O. Beißwenger	5 8
" 10	B. Ebert	4 2
ドイツ語講読Ⅱー1	井 村 行 子	7 7
" 2	亀 谷 敬 昭	7 8
" 3	下 川 浩	7 9
" 4	辻 本 勝 好	8 0
" 5	林 部 圭 一	8 1
" 6	前 田 和 美	8 2
" 7	山 中 康 子	8 3
独作文 1	C. Jobst	1 6
" 2	H. J. Troll	1 7
独会話 1	R. Briel	1 3
" 2	B. Ebert	1 4
" 3	U. 川村	1 5
時事ドイツ語Ⅰー1	金 井 満	2
" 2	木 内 基 実	3
" 3	黒 田 多美子	4
" 4	古 田 善 文	5
" 5	本 多 喜三郎	6
商業ドイツ語Ⅰ	H. H. Gätke	1 2
時事ドイツ語Ⅱー1	K. O. Beißwenger	7
" 2	B. Ebert	8
" 3	C. Jobst	9
" 4	I. Szathmary	1 0
" 5	H. J. Troll	1 1

「ドイツ語学・文学」部門

ドイツ語学概論	柿沼義孝	31
ドイツ語史	G. Wienold	35
ドイツ文学概論	矢羽々 崇	33
ドイツ文学各論	関 徹雄	37
ドイツ語学講読Ⅰ	岩崎英二郎	39
ドイツ文学講読Ⅰ	山路朝彦	41
ドイツ語学講読Ⅱ	伊藤 眞	84
ドイツ文学講読Ⅱ	関 楠生	85

「ドイツ文化」部門

ドイツの哲学	松丸壽雄	45
ドイツの歴史	古田善文	61
ドイツ事情	H. H. Gätke	63
ドイツの民俗	杉山 好	65
ドイツの音楽	近衛秀健	47
ドイツの美術	片岡啓治	49
ドイツの演劇	越部 暹	51
ドイツ文化特殊講義	中島悠爾	53
ドイツの政治	深谷満雄	67
ドイツの経済	大島通義	69
ドイツの法律	市川須美子	71

「第二外国語」部門

英語Ⅲ-1	石月正伸	19
" 2	児嶋一男	20
" 3	高松節子	21
" 4	飛田ルミ	22
英語Ⅳ	金子久男	86
英会話Ⅰ-1	T. J. Fotos	23
" 2	G. S. Gorman	25
" 3	R. M. Payne	27
" 4	J. M. Thurlow	28
" 5, 6	L. Villeneuve	29
英会話Ⅱ	D. R. Kogge	87

科 目 名	総合ドイツ語 Ⅲ (94年度以降)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung ; dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltags- gespräch.		
講 義 概 要	Abschluß von Band I and Durcharbeit von Band II der Sprachbrücke		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<i>Sprachbrücke I und II</i>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluß des Studienjahres		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科目名	時事ドイツ語 1 (94年度以降)	担当者名	金井 満
	時事ドイツ語 I-1 (93年度以前)		

講義の目標	<p>「履修者上限 45 名」</p> <p>新聞・雑誌等で用いられる、ある意味において特殊なドイツ語に慣れ、書かれている内容を正確に理解することを第一の目標とする。また第二の目標は、映像や音声などを通してドイツの事情を理解し、ドイツに関する政治的、文化的な知識を深めることである。</p>	
講義概要	<p>なるべく新しい事情を素材にして授業を進めたい。文字情報としては雑誌やインターネットなどから得られる最新の身近な情報を、映像・音声は ZDF のニュースなどを使い、今ドイツで何が話題となっているのかを中心に授業を進める。文字情報に関しては、新聞等で用いられるドイツ語に慣れるために、当初は適当な教科書を使うことを考えている。その後は事前にコピー等を配布し、内容中心に読解し、その背景などに関する討議を行う。映像・音声についてはビデオを見て、その場である程度内容を理解するように授業を行う。</p>	
使用教材	テキスト	教科書は未定。他のものは必要に応じてコピー等で配布する。
	参考文献	
評価方法	レポートもしくは筆記試験と授業への参加度で評価を行う。	
受講者に対する要望など	自発的に授業に参加する、意欲のある学生を望みます。受身的な態度の学生は評価しないつもりです。	

科目名	時事ドイツ語 2 (94年度以降)	担当者名	木内基実
	時事ドイツ語 I-2 (93年度以前)		

講義の目標	<p>「履修者上限 45 名」</p> <p>文芸作品でもなく、又学術論文でもないジャーナリズムのドイツ語に読み慣れる事を目標とする。</p>	
講義概要	<p>テキスト間に統一的なテーマは考えず、新聞、雑誌、広告その他のメディアから適宜抜粋して、読み、聞き、見る。</p> <p>さし当り、「世界を聞くードイツ・ヴェレでー」をテキストとする。</p>	
使用教材	テキスト	『世界を聞くードイツ・ヴェレでー』（白水社）及びその他のコピー。
	参考文献	
評価方法	定期試験による。	
受講者に対する要望など		

科目名	時事ドイツ語 3 (94年度以降)	担当者名	黒田多美子
	時事ドイツ語 I-3 (93年度以前)		

講義の目標	<p>「履修者上限 45 名」</p> <p>ドイツの新聞や雑誌の記事を読みながら、現在ドイツ社会が抱えている問題や、その歴史的背景などに対する理解を深めます。また、日本に関する記事も取り上げ、日本の問題をドイツ人はどのように見ているのかを、検討してみたいと思います。</p>		
講義概要	<p>主に Frankfurter Rundschau の中からその時々の特ピックを選んで読んでいきます。取り上げるトピックの内容としては、統一後のドイツの抱える社会問題や、教育問題、ナチズムという「過去」をめぐる歴史意識の問題、ネオナチなどの問題などを予定しています。</p> <p>また、出来るだけ簡単な記事から始めて、次第に内容的にも難しいものが読めるようにしていきたいと思いますが、そのために、日本に関する記事も取り上げて読む練習をしていきたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	プリント配布	
	参考文献	授業への参加度を考慮の上、試験によって評価します。	
評価方法			
受講者に対する要望など			

科目名	時事ドイツ語 4 (94年度以降)	担当者名	古田善文
	時事ドイツ語 I-4 (93年度以前)		

講義の目標	<p>「履修者上限 45 名」</p> <p>ドイツの代表的な新聞・雑誌・テレビニュース (ZDF) を題材に、時事ドイツ語の翻訳技術の向上・聞き取り能力の改善をめざす。</p> <p>時事ドイツ語の総合力向上に不可欠な、現代ドイツ・現代ヨーロッパの政治・経済・社会的基礎知識の習得につとめる (参考資料を適宜配布)。</p>	
	<p>原則として、ひと月に一テーマというペースで年間の授業をすすめる予定。昨年度の主要テーマは、「ドイツの敗戦 50 周年」、「ノルトライン＝ヴェストファーレン州議会選挙」、「EU(ヨーロッパ連合)」、「ボスニア＝ヘルツェゴヴィナへのドイツ国防軍派遣問題」、「外国人労働者子弟へのドイツ “国籍” 付与問題」、「統一 5 年後の旧東ドイツ地域の現状」、などであった。</p>	
使用教材	テキスト	新聞・雑誌のコピーを配布。参考文献も必要に応じてそのつど指示する。
	参考文献	
評価方法	<p>前期はレポートなどの課題。後期は期末試験を実施。その他、出席と授業への貢献度を加味して年間評価を決定する。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	時事ドイツ語 5 (94年度以降)	担当者名	本多喜三郎
	時事ドイツ語 I-5 (93年度以前)		

講義の目標	<p>「履修者上限45名」</p> <p>ドイツ語の報道文の読解力を養成すること及び現在ドイツ語圏の社会が抱えている諸問題についての理解を深めることを目的とする。</p>	
講義概要	<p>各種の新聞・雑誌の最新の記事の中から興味深いものを抜粋して読む。</p>	
使用教材	テキスト	プリント配布
	参考文献	
評価方法	<p>年2回の定期試験の結果、出席状況、授業での発表回数などを総合的に判断して評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	時事ドイツ語 6 (94年度以降) 時事ドイツ語 II-1 (93年度以前)	担当者名	K. O. Beißwenger
-----	---	------	------------------

講義の目標	<p>「履修者上限 45 名」(上級者クラス)</p> <p>Mit der Textlektüre soll die Lesefähigkeit erweitert werden. An den verschiedenen Themen sollen verschiedene Vokabularfelder erarbeitet werden. In den Gesprächen über einen Text soll die Diskussionsfähigkeit geschult werden.</p>		
講義概要	<p>Die Palette der Zeitungen und Zeitschriften in Deutschland ist groß und bunt. Sie reicht von der Bild-Zeitung bis zur "Die Zeit", vom Boulevardblatt bis zur Fachzeitschrift. Im Kurs werden verschiedene Zeitungs- und Zeitschriftentypen vorgestellt. Themen über die Gesellschaft in Deutschland und Japan sind Arbeits- und Diskussionsgrundlage.</p>		
使用教材	テキスト	Kopien	
	参考文献		
評価方法	<p>Mündliches Referat mit schriftlicher Zusammenfassung (Thesenpapier), eine benotete schriftliche Hausaufgabe</p>		
受講者に対する要望など	<p>Regelmäßige, aktive Teilnahme</p>		

科目名	時事ドイツ語 7 (94年度以降) 時事ドイツ語 II-2 (93年度以前)	担当者名	B. Ebert
-----	---	------	----------

講義の目標	<p>「履修者上限 45 名」</p> <p>Ziel dieses Unterrichts ist, die Studenten/innen über verschiedene aktuelle Themen aus den Bereichen Politik, Wirtschaft und Kultur zu informieren.</p>	
講義概要	<p>Ich möchte mit den Studenten/innen bestimmte Themenbereiche anhand von authentischem Material in Kleingruppen erarbeiten.</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<p>Kopien, die in der jeweiligen Unterrichtsstunde verteilt werden.</p>
評価方法	<p>Am Ende jedes Semesters soll ein etwa 3-4seitiger und auf deutsch verfaßter Aufsatz abgegeben werden.</p> <p>Regelmäßige Teilnahme am Unterricht sowie aktive Mitarbeit sind Voraussetzungen für einen positiven Abschluß.</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	時事ドイツ語 8 (94年度以降) 時事ドイツ語 II-3 (93年度以前)	担当者名	C. Jobst
-----	---	------	----------

講義の目標	<p>「履修者上限 45 名」</p> <p>ドイツの国情を正しく把握する能力を増す。</p> <p>Wir wollen anhand der neuesten Nachrichten des ZDF lernen, Deutschland richtig zu verstehen.</p>	
講義概要	<p>NHK衛星放送で毎朝放映されているドイツ第二放送の報道番組「ZDF・heute」の中から選択されているニュースを見て、最新情報についてディスカッションします。</p> <p>Wir sehen uns die neuesten Nachrichten des ZDF an und diskutieren über den Inhalt auf d e u t s c h.</p> <p>Wir lernen dabei richtig hören und über neue Inhalte zu sprechen.</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	収録ビデオ
評価方法	平常点及び年末試験	
受講者に対する要望など	何よりも熱意, そして無断で欠席しないこと。	

科目名	時事ドイツ語 9 (94年度以降)	担当者名	I. Szathmary
	時事ドイツ語 II-4 (93年度以前)		

講義の目標	「履修者上限 45 名」	
	Das Kollegium erzielt die systematische Weiterbildung dieser Studenten, die sich in der Behandlung der wichtigsten Kapiteln der deutschen Elementargrammatik unsicher fühlen. Nach diesem Studium wird der Student fähig, Sätze der Umgangssprache mit grammatischer Präzision aufbauen zu können.	
講義概要	Grammatische Übersicht: Wortlehre, Satzlehre. Syntaktische Möglichkeiten der Satzkonstruktion (einfacher Satz, zusammengesetzter Satz). Präzise Analyse der Satzverbindungen und auch der verschiedenen Nebensätze im Satzgefüge. Die wichtigsten und am häufigsten gebrauchten Kapiteln der Wortlehre (Deklination des Nomens, Konjugation des Verbs, etc.) werden-wenn nötig-wiederholt.	
	テキスト	
使用教材	参考文献	Ohne Buch ; ich schreibe alles an die Tafel.
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	時事ドイツ語 10 (94年度以降)	担当者名	H. J. Troll
	時事ドイツ語 II-5 (93年度以前)		

講義の目標	「履修者上限 45 名」 Wir wollen uns mittels verschiedener Materialien (Video, Zeitungs- und Zeitschriften-ausschnitten) im Gebrauch des heutigen Deutsch üben.	
	Je nach Klassenstärke und Niveau der Teilnehmer soll dieser Unterricht versuchen, Entwicklungen und Trends des gegenwärtigen Deutschland in leicht verständlicher Form zu vermitteln. Schwerpunkte : Soziale Trends, politische Entwicklungen, Umweltfragen, Blick auf Europa, Situation der Jugend und Familie.	
使用教材	テキスト	
	参考文献	Material bringt der Professor
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> —Anwesenheit und aktive Beteiligung im Unterricht —Tests, falls erforderlich 	
受講者に対する要望など	<ul style="list-style-type: none"> Interesse an aktuellen Themen Regelmäßige Teilnahme 	

科目名	商業ドイツ語 (94年度以降) 商業ドイツ語 I (93年度以前)	担当者名	H. H. Gähke
-----	--------------------------------------	------	-------------

講義の目標	Verständnis für den Ablauf des Außenhandelsgeschäfts, der damit einhergehenden Korrespondenz und der dabei gebräuchlichen Fachsprache ; selbständiges Abfassen einfacherer Geschäftsbriefe.	
講義概要	Von der Anfrage über das Angebot und die Bestellung bis zur Versandanzeige, Rechnungserstellung, Bezahlung und Beschwerde wird der gesamte Ablauf eines Im- bzw. Exportgeschäftes behandelt. Paralle werden Beispiele der dabei anfallenden Geschäftsbriefe mit den entsprechenden Grundbegriffen und Fachwörtern, nach Möglichkeit gleichzeitig auch auf englisch, besprochen und das selbständige Abfassen solcher Briefe eingeübt.	
使用教材	テキスト	Kopien von Musterriefen werden ausgeteilt
	参考文献	Jochen Rudolph, <i>Handbuch der (deutsch-) englischen Wirtschaftssprache</i> , Langenscheid, Berlin 1975 Manfred E. Streit etc., <i>Die Wirtschaft heute</i> , Meyers Lexikonverlsg, Mannheim 1984 田沢五郎 : 『ドイツ政治経済法制辞典』 郁文堂 1990
評価方法	regelmäßige und aktive Teilnahme am Unterricht, gewissenhafte Erstellung der Hausaufgaben, je ein Test zum Semesterende	
受講者に対する要望など	Dieser Kurs ist berufsvorbereitend ; er ist sprachlich anspruchsvoll ; daher sind nur ernsthafte Interessenten zur Teilnahme erwünscht und keine tani-Jäger !	

科目名	上級ドイツ語（会話）1（94年度以後） 独会話 1（93年度以前）	担当者名	R. Briel
-----	--------------------------------------	------	----------

講義の目標	Ziel des Unterrichts ist, die Sprechfähigkeit der Studenten auszubauen und zu vertiefen. Die Studenten lernen, sich in Alltagssituationen zurechtzufinden.	
講義概要	Wiederholung des bisher Gelernten, Grammatikübungen, Leseübungen, Diktate, Hörverständnisübungen, Dialogübungen (Lesen, Erklärungen unbekannter Wörter in deutscher Sprache, Fragen zum Inhalt, Verfassen von Variationen), Übungen zum richtigen Einsatz von umgangssprachlichen Redewendungen.	
使用教材	テキスト	Sprachkurs Deutsch 1
	参考文献	a) Regelmäßige Teilnahme am "und" im Unterricht. b) Teilnahme an den Semesterabschlußtests.
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	上級ドイツ語（会話） 2 （94年度以降） 独会話 2 （93年度以前）	担当者名	B. Ebert
-----	---	------	----------

講義の目標	<p>「96年度に限り、4年生と教職課程履修者に限り受講することができる。」（上級者クラス）</p> <p>In diesem Oberstufenkurs sollen die Kursteilnehmer/innen vor allem lernen, komplexe Inhalte zu erfassen und mündlich wiederzugeben. Freie Meinungsäußerung (z. B. in Diskussionen) und Kurzvorträge werden geübt.</p>	
講義概要	<p>In diesem Unterricht werden verschiedene Materialien (zu einem übergeordneten Thema) herangezogen, die allerdings erst bei Kursbeginn zur Verfügung gestellt werden. Ausgehend von einem kurzen Text oder einer Kassette soll in Gruppenarbeit zu verschiedenen Fragen Stellung genommen werden.</p>	
使用教材	テキスト	KOPIEN
	参考文献	
評価方法	<p>Regelmäßige Anwesenheit und aktive Mitarbeit sind Grundlage für die Beurteilung.</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	上級ドイツ語（会話） 3（94年度以降） 独会話 3（93年度以前）	担当者名	U. 川 村
-----	---------------------------------------	------	--------

講義の目標	<p>「96年度に限り、4年生と教職課程履修者に限り受講することができる。」</p> <p>Entwicklung der Hörverstehens- und <u>Sprechfähigkeit</u>, und zwar im kommunikativen Rahmen bestimmter Sprechintentionen und Sprechsituationen der Alltagskommunikation. <i>Methode</i> : Hörverstehensübung durch Zuhören authentischer Spontandialoge, Nachsprechen, Nachspielen u. Abändern der Dialoge, Aufbau u. Gestaltung freier Dialoge als Übung zur aktiven Sprachproduktion.</p>		
講義概要	<p><u>12 Sprechintentionen</u> : Vorstellung, Tagesabläufe, Einkaufen, Arbeitssuche, Bank und Sparkasse, Essen gehen, Geburtstag, Krankheit, Reisen, Auto.</p> <p>Fragen stellen, Auskünfte erteilen, über Pläne, Studium, Hobbys, Gewohnheiten sprechen. Themen auch nach Wunsch der Studenten.</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>Alltag in Deutschland</i> (INTERNATIONES Werner und Alice Beile)+ Zusatzmaterial</p>	
	参考文献	<p>Textbücher werden vom Lehrer direkt in der BRD, Bonn, bestellt</p>	
評価方法	<p>Nach aktiver Unterrichtsbeteiligung, kleinen Zwischentests, Hausaufgaben, 2 Semesterabschlußtests.</p>		
受講者に対する要望など	<p>Gute Grundkenntnisse Interesse an wirklich aktiver Mitarbeit Regelmäßige Teilnahme am Unterricht.</p>		

科目名	上級ドイツ語（作文）1（94年度以降） 独作文 1（93年度以前）	担当者名	C. Jobst
-----	--------------------------------------	------	----------

講義の目標	<p>いろいろなテーマについて自由に簡潔なドイツ語文章を書く能力を身につける。まず各自はそれぞれ一番面白い体験をドイツ語で書きおろしてみたうえで音読します。共通と個別の間違いに対する意識を高め、その認識に導くためです。者の描写等、小説の内容を自分のドイツ語で要約して表現することは、上述のパターンでさらに自分の語学能力の認識を深めます。</p>		
講義概要	<p>授業のすすめ方 人数によってかなり違ってきますが、毎週各自がA4版1～2枚の作文を書きあげることが理想です。</p> <p>授業の進度 単純な描写からスタートして、一年間で自分の発想をドイツ語で簡単に表現できることを目的とします。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	平常点及び年末レポート		
受講者に対する要望など	何よりも熱意、そして宿題に時間をかけること。		

科目名	上級ドイツ語（作文） 2 （94年度以降） 独作文 2 （93年度以前）	担当者名	H. J. Troll
-----	---	------	-------------

講義の目標	<p>「96年度に限り、4年生と教職課程履修者に限り受講することができる。」</p> <p>Vervollkommung im schriftlichen Ausdruck der deutschen Sprache anhand verschiedener Übungsformen, nach anfänglicher Wiederholung.</p>		
講義概要	<p>Nach einer einführenden Phase wollen wir uns im Sommersemester mit dem Gebrauch der Zeitformen in schriftlicher Form befassen: Verben und praktische Anwendung in verschiedenen Texten, Mitteilungen an Freunde, Kollegen, Vorgesetzte. Das zweite Semester soll sich mehr mit Briefschreiben und den verschiedenen Möglichkeiten befassen.</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>Zur Vor- und Nachbereitung und zur häuslichen Übung empfehle ich : Y. Fukuda/H. Troll『表現と作文』（Verlag 白水社）</p>	
評価方法	<p>— Mitarbeit im Unterricht</p> <p>— Tests nur, wenn zuviele Teilnehmer.</p>		
受講者に対する要望など	<p>Freude am Schreiben</p>		

科目名	通訳特殊演習（94年度以降）	担当者名	山路朝彦
-----	----------------	------	------

（後期完結）

講義の目標	<p>後期のみの半期授業科目です（2単位）。</p> <p>4月の第一週に1回だけ、（後期開講の授業時間・教室で）オリエンテーションのための授業を行いますので、必ず出席して下さい。その際に参加希望者が多い場合は、選抜を行います（予定参加者数15名）。</p> <p>通訳養成の職業訓練を行うのではなく、「通訳」という職業に必要な高度な外国語運用能力を目標として設定し、そこへ至る各「能力段階」を客観的に把握し、各段階ごとに行われているトレーニング方法を実地に体験出来るように指導します。</p> <p>限られた回数の中で語学力をのばすというより、各自のレベルごとに可能な練習方法を今後の自主的な学習に活かすこと＝長期的なステージの設計、短期的な目標とその実現方法の模索＝を目標とします。</p>	
講義概要	<p>基礎練習：シャドーイング、日本語原稿の日本語での要約、短期記憶の訓練</p> <p>形式練習：挨拶・司会の通訳などの定型修得</p> <p>語彙拡張：新聞テキストの穴埋め</p> <p>伝達訓練：図形・地図描写</p> <p>資料収集：日独新聞・雑誌の収集比較、辞書・事典の検索</p> <p>以上のような基礎的技法をおさえた上で、即時の要約、インタビュー形式での練習、サイトトランスレーションなどに進んでいきます。</p> <p>参加者に交替で各授業の内容を「プロトコル」にまとめてもらう他、各自で相当の準備をしてもらいます。</p>	
使用教材	テキスト	プリント使用。
	参考文献	教室で指示します。
評価方法	各授業中の成果により評価します。	
受講者に対する要望など		

科目名	英語Ⅲ-1	担当者名	石月正伸
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>短編小説をいくつか読み、このジャンルにおける読解力の充実を図りたい。この場合の読解力とは、英文自体の意味を正しく捉えるだけでなく、文学的解釈つまり批評的解釈の力も指すものとしたい。加えて、「英文が読めるのは英語科だけではない」を我々のスローガンとしたい。少しおおげさかもしれないが、志は高く、である。最後に、学生が自惚れることなく謙虚に、しかし意欲的に常に問題意識を持ちながら学問をしてゆくという態度を身につけることができるような授業内容にできる限りしてゆくつもりです。未来はあるのではなくつくるものです。</p>				
講義概要	<p>戦後アメリカの短編をいくつか読みます。授業では学生に前もって書いてきた英文の訳を読んでもらいます。原則的に発表の番が来た場合その場で訳すことは認めません。日本語に訳すということがそんなに簡単ではないのと、日本語に訳すというのが一つの勉強になると考えているからです。読んだ短編に関しては必ず簡単な感想を書いてもらうこととなります。感想の書き方の練習も含まれるということです。作品のテーマを捉え、<u>自分にとってその作品がどのような意味を持つのか</u>ということを考えながら読む姿勢を身につけるためでもあります。ただ意味をつかめばよいという受動的な読みではなく、作品に対して自分の意見を持ち、それを述べることを目的とした能動的な読みを目指します。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <p><i>American Scenes Today : 6 Recent American Stories</i> (金星堂) プリントを併用する予定</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>文学批評に特に興味のある学生や、文学のゼミを選んで卒論を予定している学生には、『文学批評入門』日下／青木訳(1986、彩流社)を推薦します。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<p><i>American Scenes Today : 6 Recent American Stories</i> (金星堂) プリントを併用する予定</p>	参考文献	<p>文学批評に特に興味のある学生や、文学のゼミを選んで卒論を予定している学生には、『文学批評入門』日下／青木訳(1986、彩流社)を推薦します。</p>
テキスト	<p><i>American Scenes Today : 6 Recent American Stories</i> (金星堂) プリントを併用する予定</p>				
参考文献	<p>文学批評に特に興味のある学生や、文学のゼミを選んで卒論を予定している学生には、『文学批評入門』日下／青木訳(1986、彩流社)を推薦します。</p>				
評価方法	<p>発表・レポート・(小)テスト(?)を参考に。「努力」には必ず進歩と成績が伴うものと考えておりますので、努力という点にウェイトを置いております。ただし、結果の伴わない勉強はムダ、とも考えております。努力も成果があって初めて努力であることを忘れぬように。</p>				
受講者に対する要望など	<p>英語科じゃないからといって甘やかさないで、と思っている学生、自分の英語力が卒業までに落ちたらどうしようかと心配している学生、そのような英語に執着心のある学生がいると授業が楽しくなるはず。</p>				

科目名	英語Ⅲ-2	担当者名	児嶋一男
-----	-------	------	------

講義の目標	ミュージカル <i>My Fair Lady</i> の原作である G. B. Shaw の劇作品を読みながら、まずは芝居は楽しいものであることを知り、それから演劇文化について考えます。また、ト書きから描写の表現を、セリフから日常生活に使える会話表現を覚えます。		
講義概要	テキストにそって役割分担をし、role play をしながら読んでいきます。舞台上でしゃべるのに自然な日本語を考えることで、少し翻訳めいた授業にしたいと思います。		
使用教材	テキスト	G. B. Shaw : <i>Pygmalion</i> 英潮社	
	参考文献	そのつど、授業中に言及する。	
評価方法	毎時間、簡単な vocabulary の試験をします。定期試験はこれをもとに出題されます。また、前期・後期の観劇レポートが課せられます。		
受講者に対する要望など	丹念に辞書を引くことを要求します。英語も覚えて、芝居も楽しもうという欲張りな受講生を期待しています。		

科目名	英語Ⅲ－3	担当者名	高松節子
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>英語でいう anecdote とは humor の一分野です。つまり特定の個人に結びついたジョークやヒューモラスな表現が anecdote ということになります。したがって、本テキスト中の話も、「この人にしてこの言あり」というところを味読していきたいと思います。</p>		
講義概要	<p>ダイアナ王妃がオーストラリアを訪問した時のこと、ジョン・F・ケネディが初めて政界に入る時のキャンペーンの中味、自分の絵が競売で高値で売れたときのドガの気持、ハリウッドを訪れたアインシュタインにチャップリンが言った言葉——など、興味津々の選りすぐられた逸話を読んでいきます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>郡司利男・高松節子編注200 Anecdotes『笑う逸話』（開文社）</p>	
	参考文献	<p>適宜紹介します。</p>	
評価方法	<p>期末テストと平常点で評価します。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	英語Ⅲ-4	担当者名	飛田ルミ
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>本講座では英語によるコミュニケーション能力の向上を目指し、4技能におけるコミュニケーションに必要なスキルを効果的に習得することを目標とする。具体的には、インプットした内容を自分自身で自由にアウトプットできる能力を獲得するために、インプットのリーディング及びリスニングでは、英文の大意を正確に速く把握するストラテジーを、アウトプットのライティング及びスピーキングでは、与えられたタスクに対して様々な表現法で自分の意見を提示できるストラテジーを意識して、実際に使える英語を身に付けることが理想である。</p>	
講義概要	<p>日本の英語教育に於ける4技能の定義、目的及び教授法や問題点などの背景を踏まえて各技能の訓練を行う。リーディングは速読力を高めるテキストを使用し、基礎的知識を習得しながら内容理解を深める速読演習を行う。リスニング、スピーキングはテープやビデオ教材を使用して、ディクテーション、スピーチ、グループディスカッションなどアクティブな訓練を行い、学習者同士の英語によるコミュニケーション活動へと発展させる。ライティングに関しては、自分の基礎英語能力を工夫して無理なくレベルアップできる練習問題を行う。</p>	
使用教材	テキスト	<p><i>PRACTICAL FASTER READING</i> 朝日出版 その他ビデオ、テープを使用し、プリントも配布。</p>
	参考文献	<p>『新・英語教育の研究』大修館 『英語のリーディング』大修館 <i>VIEW POINTS : FOR AND AGAINST</i> 金星堂</p>
評価方法	<p>前期・後期試験、レポート、グループ発表、及び平常点（授業内での発言、出席点等）を総合して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>予習及び発表が課されるので、授業に対する積極的態度を必要とする。</p>	

科目名	英会話 I - 1	担当者名	T. J. Fotos
-----	-----------	------	-------------

講義の目標	This course is designed to improve the basic skills of hearing, speaking, writing, and reading. The cultural and contextual aspects of language learning and reproduction will be emphasized through selected videos, reading movie reviews and class discussion.	
講義概要	The significant segments of each video section will be introduced, discussed, viewed, and then practiced in class. Small group guided discussion will be encouraged. There may be additional topics covered as determined by the level and interests of the students.	
使用教材	テキスト	A textbook, based on the videos, will be determined later
	参考文献	Selected video scripts will be available in addition to various exercises and practice sections will be used.
評価方法	Assessment of students will based on two tests as well as more frequent reports and class participation and good ateedance.	
受講者に対する要望など	Please attend class prepared in advance for the weekly lesson. Active participation is expected.	

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction and organization and interview evaluation
2	Topic and discussion
3	"
4	"
5	"
6	"
7	Review
8	Topic and discussion
9	"
10	"
11	"
12	Examination
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	Topic and discussion
2	"
3	"
4	"
5	"
6	"
7	Review
8	Topic and discussion
9	"
10	"
11	Summation of topic covered and final review.
12	Final examination.
備考	

科目名	英会話 I - 2	担当者名	G. S. Gorman
-----	-----------	------	--------------

講義の目標	<p>The purpose of this course is to give the students the opportunity to listen to and study various dialects of idiomatic American and British English, as depicted in contemporary music.</p>	
講義概要	<p>The words (lyrics) in British and American (probably all) music are specialized and massaged to fit the tune or rhythm of the musical piece. In addition, there are often double and hidden meanings in the music. Each week the class will listen to several musical selections. Students, working in groups, will be tasked to "translate" the lyrics into contemporary English and explain the full meaning to the class.</p>	
使用教材	テキスト	<i>Pop Song Listening</i> , K. R. Kanel, Seibido
	参考文献	Additional handouts and videos will be provided by the instructor as needed basis.
評価方法	<p>Student performance will be based on class participation, attendance and report (s). In addition, there will be a mid-term and final test.</p>	
受講者に対する要望など	<p>The student should enhance his/her listening and comprehension abilities as well as gain an appreciation for the richness and diversity of American English.</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Class 1-Introduction and outline of course. Selection of Student groups. First musical renditions.
2	Class 2-Musical listening, analysis and first student reports.
3	Class 3-Listening, analysis and reports.
4	Class 4-Same as week # 3.
5	Class 5-Same as week # 3.
6	Class 6-Same as week # 3.
7	Class 7-Same as week # 3.
8	Class 8-Same as week # 3.
9	Class 9-Same as week # 3.
10	Class 10-Same as week # 3.
11	Class 11-Same as week # 3.
12	Class 12-Review. Mid-term test.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Re-emphasis of course objectives, in-class listening and analysis. Assignment of reports.
2	Listening, analysis and reports by students.
3	Class 3-Same as week # 2.
4	Class 4-Same as week # 2.
5	Class 5-Same as week # 2.
6	Class 6-Same as week # 2.
7	Class 7-Same as week # 2.
8	Class 8-Same as week # 2.
9	Class 9-Same as week # 2.
10	Class 10-Same as week # 2.
11	Class 11-Same as week # 2.
12	Class 12-Review. Critique and evaluation of course. Final Test.
備考	

科目名	英会話 I-3	担当者名	R. M. Payne
-----	---------	------	-------------

講義の目標	<p><u>Course Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> to give students practice in building conversational and communicative skills to improve students' listening skills to expose students to the culture of the language 																											
講義概要	<p><u>Instructional Plan:</u> We will cover approximately one study unit every two classes. On the first day, we will look at the vocabulary and discuss the unit in general terms. On the second, we will do other expansion activities. Following is a tentative schedule of the topics we will work on.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Class</th> <th>Study Unit subject</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1-2</td><td>International travel</td></tr> <tr><td>3-4</td><td>City life</td></tr> <tr><td>5-6</td><td>Rural life</td></tr> <tr><td>7-8</td><td>Money! Money! Money!</td></tr> <tr><td>9-10</td><td>Shipping and mailing things</td></tr> <tr><td>11-12</td><td>Buying food and other shopping</td></tr> <tr><td>13-14</td><td>Long distance travel in America</td></tr> <tr><td>15-16</td><td>Hotels and restaurants</td></tr> <tr><td>17-18</td><td>Outdoor sports and activities for warm weather</td></tr> <tr><td>19-20</td><td>What to do for fun when the weather is cold and/or snowy</td></tr> <tr><td>21-22</td><td>Holiday customs and traditions</td></tr> <tr><td>23-24</td><td>Professional entertainment such as concerts and amusement parks</td></tr> </tbody> </table>		Class	Study Unit subject	1-2	International travel	3-4	City life	5-6	Rural life	7-8	Money! Money! Money!	9-10	Shipping and mailing things	11-12	Buying food and other shopping	13-14	Long distance travel in America	15-16	Hotels and restaurants	17-18	Outdoor sports and activities for warm weather	19-20	What to do for fun when the weather is cold and/or snowy	21-22	Holiday customs and traditions	23-24	Professional entertainment such as concerts and amusement parks
Class	Study Unit subject																											
1-2	International travel																											
3-4	City life																											
5-6	Rural life																											
7-8	Money! Money! Money!																											
9-10	Shipping and mailing things																											
11-12	Buying food and other shopping																											
13-14	Long distance travel in America																											
15-16	Hotels and restaurants																											
17-18	Outdoor sports and activities for warm weather																											
19-20	What to do for fun when the weather is cold and/or snowy																											
21-22	Holiday customs and traditions																											
23-24	Professional entertainment such as concerts and amusement parks																											
使用教材	テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <u>Text</u> : to be announced Complementary/supplemental listening materials and activities may be used as appropriate. Suggestions from students are welcome. 																										
	参考文献																											
評価方法	<p>Grades in this class will be based on the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> <u>attendance and participation: 50%</u> This score will be based on the student's performance in class, preparation for class, and completion of assignments. If a student is absent more than seven times, the student will receive a failing grade for the class. Two tardies will be counted as one absence. <u>tests and quizzes: 30%</u> <u>assignments/homework: 20%</u> Homework will be assigned in preparation for each lesson/chapter. 																											
受講者に対する要望など																												

科目名	英会話 I-4	担当者名	J. M. Thurlow
-----	---------	------	---------------

講義の目標	To enable the students to learn how to interact with other people in a natural way, using both verbal and non-verbal communication.		
講義概要	Using pair and groupwork, the students will learn for themselves how to take the English which is inside their heads and put it to good use, both in the dialogues in the text, and also in situations taken from real life.		
使用教材	テキスト	Teamwork 2. Challenges in English. Seido Language Institute.	
	参考文献		
評価方法	Active and regular participation in classwork will be the main basis for the awarding of grades.		
受講者に対する要望など			

科目名	英会話 I-5, 6	担当者名	L. Villeneuve
-----	------------	------	---------------

講義の目標	<p>このコースに登録する為に 誰もが十分な英語の文法の知識を持って居るという事は必要ありません。 此のコースの目的は色々な方法を通じて、生徒は幾らか英会話が出来ると言う事が大事なのです。 どうぞ自信を持って参加する様に。 この講座は英会話の初心者向けにデザインされました、講座の方針は、その場で覚えた単語表現を、即実践に移すというものです。講座は、NHK のラジオ講座を参考に進めます。即戦力を伴った実用的英会話のレベルアップを図ります。どうぞ気軽にご参加ください。</p>	
	講義概要	
使用教材	テキスト	教材は、最初の授業の時発表します。
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	ドイツ語学概論	担当者名	柿沼義孝
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>学生諸君の多くは、これまでにドイツ語を本格的に学習したことのある人は数少ないと思う。また他方で、数年にわたって、いささか面倒な文法といわれる「怪物」と格闘してきた諸君もあるに違いない。この「ドイツ語学概論」では、初めての諸君には、これから学ぶドイツ語の世界のいろいろな面を眺めることでドイツ語が大好きになってほしい、またこれまでドイツ語を学んできた諸君には、そのドイツ語に今までとは違った側面があり、それを研究観察することで、言語・思想・文化研究へのしっかりとした足がかりをつくって欲しいという2点が目標である。</p>		
講義概要	<p>前期では、これからドイツ語を学びつつある諸君と、現在ドイツ語を修得する過程にある諸君とドイツ語の森を散歩することからはじめ、ドイツ語の諸相を学んで行くと同時に言語学的な観察の仕方を身につける。名付けて、「ドイツ語の森—散策コース」。</p> <p>後期では、前期のドイツ語に対する基本的な知識を基にして、さらに詳しい知識や研究調査のための様々な方法を学んでいく。名付けて、「ドイツ語の森—探険・征服コース」。</p>		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	<p>入門のために：</p> <p>カール＝ディーター・ビュンティング著 千石／川島他訳 『言語学入門』（白水社）</p> <p>その他第1回目の講義で指示</p>	
評価方法	前期後期のレポートと講義への参加度による。		
受講者に対する要望など	講義を聞くのではなく、講義に参加することでドイツ語に関するいろいろな疑問をいっしょに考えていって欲しいと思います。		

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	ドイツ語よもやま話。一年間の予定について。
2	文字のはなし。
3	ドイツ語って変化ばかりで…… (語形変化について)
4	辞書は単語の意味を調べるだけではありません。
5	ドイツ語はどう変わってきたか。(1)
6	“ (2)
7	ドイツ語と他の言語の関係は?
8	Sonnabend それとも Samstag? (方言のはなし)
9	書き言葉と話言葉。
10	地名と人名のはなし。
11	予備日
12	ドイツ語の森を振り返って。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	言語における点と線。(言語研究のあれこれ) 1
2	“ 2
3	ドイツ文法家といわれた人々。(言語研究の歴史)
4	ドイツ語の研究領域 1. 語彙
5	“ 2. シンタクス (文の構造)
6	“ 3. 意味のはなし (1)
7	“ 4. “ (2)
8	“ 5. 人は言語をどう使うのか (語用論)
9	“ 6. のどひこの“r” ってなぁーに (音声学と音韻論)
10	日本語とドイツ語を対照する。(対照言語学的研究)
11	研究調査の方法、文献をどう調べるか。
12	うつりゆくこそことばなれ。(まとめ)
備考	

科目名	ドイツ文学概論	担当者名	矢羽々 崇
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>活字文学の衰退が問題になっていますが、それでも「文学」が存在し続けているのはなぜなのでしょう。</p> <p>1年間の講義を通して皆さんに学んで欲しいのは、「文学」の愉しさです。しかし文学を楽しむためには、ただ読めばいい、だけではない、さまざまな楽しみ方があるのです。そのための基礎を勉強したいと思います。</p>		
講義概要	<p>前期ではまず「文学」とは何か、という大きなテーマをさまざまな側面から取り上げたいと思います。今回は「文学」をさまざまなメディアの一つとして取り上げます。</p> <p>前期で学んだことをふまえ、後期ではドイツ文学の歴史を概観します。また通史的な視点と同時に、特定のテーマにしたがって文学史を横断的に読むことも試みたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	必要に応じてプリントを配布。	
	参考文献	授業中に指示します。	
評価方法	授業期間中にレポートを数回実施。年度末に試験を実施。		
受講者に対する要望など			

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	導入 文学とは何か。
2	世のため人のための文学? 役立たずの文学?
3	文学の技法 ウソとマコトの間?
4	文学のジャンル 詩(歌)・演劇(ドラマ)・叙事詩(小説) etc.
5	翻訳の問題 翻訳は可能なのか。
6	文学理解の問題(文芸学) 1 文学研究は役に立つのか。
7	文学理解の問題(文芸学) 2 感想文がいけない理由。
8	文学理解の問題(文芸学) 3 深読みと浅読みの間で。
9	読みの可能性 1 作者は死んだか。
10	読みの可能性 2 作品はどこにいるのか。
11	読みの可能性 3 読者は何をするのか。
12	予備日
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	18世紀のドイツ文学 「光の世紀」はどれぐらい明るかったのか。
2	18世紀末のドイツ文学 「新たな時代への希望」
3	19世紀のドイツ文学 「市民の時代」はどれぐらい市民的だったのか。
4	19世紀末のドイツ文学 「世界の終末」見えざるものの台頭
5	20世紀のドイツ文学 「群衆の時代」「性の発見」
6	20世紀末のドイツ文学 「???'」
7	「僕」「わたし」って何? 「私」の登場・懐疑・没落
8	愛は地球を救う? 愛のかたち
9	家族の肖像 父親・母親の存在 子供の発見
10	旅すること 「旅」のメタファーと人生
11	見ることの文学史 自然と風景の発見
12	予備日
備考	

科目名	ドイツ語学各論 (94年度以降) ドイツ語史 (93年度以前)	担当者名	G. Wienold
-----	------------------------------------	------	------------

講義の目標	Morphologie des Deutschen als ein Teilgebiet der Linguistik des Deutschen. Die Vorlesung versucht dabei gleichzeitig eine allgemeine Einführung in die Morphologie von natürlichen Sprachen. Auch die komplexe kulturhistorische Gestalt von Wörtern soll dabei, soweit es geht, zu ihrem Recht kommen. Die theoretische Konzeption ist die einer generativen Grammatik, ohne sich unbedingt auf einen spezifischen Typ einer generativen Grammatik festzulegen. Die Darstellung erfolgt z.T. auf japanisch, z.T. auf deutsch.		
講義概要	Wörter sind ein grundlegender Bestandteil des sprachlichen Wissens und Verhaltens des Menschen. Wörter sind nun keineswegs einfach: 1) sind viele komplex, 2) erscheinen viele in unterschiedlichen Formen, in unterschiedlicher Weise geregelt, 3) zeigen Wörter eine komplexe kulturhistorische Gestalt und 4) können Sprecher nach bestimmten Regeln selbständig und spontan neue Wörter bilden. Diese Vielfalt von Regelmäßigkeiten und Unregelmäßigkeiten behandelt die Morphologie.		
使用教材	テキスト	アンソニー・フォックス『ドイツ語の構造』三省堂 柴谷方良、影山太郎、田守育啓『言葉の構造』意味・総語篇 くらしお	
	参考文献	Elke Hentschel-Harald Wegdt, Handbuch der deutschen Grammatik de Gruyter 1990 風間喜代三『言語学』東京大学出版会 1993	
評価方法	試験		
受講者に対する要望など	毎週練習問題を出す予定です。		

年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	Wörter: Der Aufbau von Wörtern und ihre Erscheinungsformen in der Rede
2	Grundlegende Begriffe und Analyseverfahren
3	Affigierung
4	Die phonologische und graphematische Gestalt von Wörtern. Morphemstruktur
5	Akzent und Ton
6	Morphologische Prozesse-Analogie. Lexikalisierung
7	Morphologische Prozesse II: Umlaut und Kontraktion
8	Morpheme in syntaktischen Strukturen I: die deutsche Nominalphrase
9	Morpheme in syntaktischen Strukturen II: komplexe Verbformen
10	Trennbare Morphemverbindungen: I: bei <i>da</i> und <i>wo</i> ; II: Verben mit "trennbarem Präfix"
11	Flexion und Wortarten I: Nomina, Verben, Adjektive
12	Flexion und Wortarten II: Adverbien, Proformen und Determinatoren u.a.
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	Wortbildung: Wortbildungstypen und Wortbildungsprozesse (Produktivität)
2	Lateinisches, Griechisches und Französisches in deutschen Wörtern
3	komposition, besonders Nominalkomposition
4	Derivation: Derivationstypen, abgeleitete Nomina
5	Verbale Präfixbildungen
6	Verbale Suffixbildungen
7	Abgeleitete Adjektive
8	Rückbildung und Konversion
9	Reduplikation und Kürzung
10	Wörter und Syntax I: reflexive Verben
11	Wörter und Syntax II: Funktionsverbgefüge
12	Wörter und Syntax III: Kausativ
備考	

科目名	ドイツ文学各論	担当者名	関 徹 雄
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>——ドイツ古典主義と現代——</p> <p>文学の精神史的研究の立場にある Fritz Strich のテキストを用いて、ドイツ古典主義と現代との関連を講義形式で授業を行なう。</p>		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論者の立場である精神史派の成立過程ならびに特徴を論ずる。 2. ドイツ古典主義の特質について解明する。 3. テキストが論ずるゲーテと <u>1932</u> 年のドイツとの関連性を問題とする。 		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> • F. Strich ; <i>Goethe und unsere Zeit</i> (コピーして配布する) 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> • 『ドイツ文学案内』(岩波文庫別冊) 	
評価方法	<p>前後期 2 回の試験による。テキストの内容についての解釈、説明を要求する。辞書、参考書等を持参してもよい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>内容は論の積上げであるから、欠席しないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	精神史派文学の由来
2	同上
3	精神史派文学の展開
4	同上
5	精神史派に由る F. Strich の研究方法と特質
6	同上
7	ドイツ古典主義の意味について
8	同上
9	以下、テキストにしたがって講義する 1777年ゲーテ、「冬のハルツ紀行」について
10	同上
11	フランス革命後のヨーロッパとゲーテのフランス滞在
12	同上
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	フランス革命後のゲーテの文学作品、「ヘルマンとドロテア」など。
2	同上
3	同上
4	ゲーテとナポレオン
5	同上
6	革命と民族主義
7	同上
8	ゲーテの基本的人間像
9	同上
10	ゲーテの世界市民性と現代との隔絶
11	同上
12	同上
備考	

科目名	ドイツ語講読（語学）Ⅰ－Ⅰ（94年度以降） ドイツ語学講読Ⅰ（93年度以前）	担当者名	岩崎英二郎
-----	---	------	-------

講義の目標	現代のドイツ語は、比較的短い文から構成されていて、主文と副文の組み合わせもさほど複雑ではないから、一般に理解しやすいと言われている。この講読の授業では、あえて難解な、構文の複雑なテキストを選んで、受講者の読解力を大いに鍛えたいと思っている。	
講義概要	テキストは文学作品（短篇小説）であるが、説明は主として語学的な観点から行い、受講者の文法知識の拡充に役立てたいと考えている。	
使用教材	テキスト	Heinrich von Kleist : <i>Der Findling</i> (郁文堂)
	参考文献	
評価方法	前期および後期の試験の成績によって評価する。	
受講者に対する要望など	上記のような目標を掲げているので、意欲的な受講者ばかりが集ってくれることを、切に願っている。	

科目名	ドイツ語講読（語学） I－2（94年度以降） ドイツ語講読 I－2（93年度以前）	担当者名	木内基実
-----	--	------	------

講義の目標	ドイツ語の「格」について、その歴史的変遷と意味を学ぶ。		
講義概要	ベハーゲルの「ドイツ語シンタクス」を基本とし、その他の資料も合わせて「格」について読んでいく。		
使用教材	テキスト	コピー。	
	参考文献	O. Behagel : <i>Deutsche Syntax</i> . H. Paul : <i>Deutsche Grammatik</i> . W. Abraham : <i>Terminologie zur neueren Linguistik</i> .	
評価方法	定期試験による。		
受講者に対する要望など	人並のドイツ語読解力が必要。		

科目名	ドイツ語講読（文学）Ⅰ－Ⅰ（94年度以降） ドイツ文学講読Ⅰ（93年度以前）	担当者名	山路朝彦
-----	---	------	------

講義の目標	『ドイツ現代詩を読む』 皆さんは1・2年生の時にコミュニケーション主体のドイツ語学習をしてきたことと思います。そこで、この授業ではギリギリの非コミュニケーション（沈黙）に至る現代詩を、徹底して「文法訳読」する練習をしたいと思います。		
講義概要	切り詰めた語数で綴られる詩を理解するには、2年間にわたって学んできたドイツ語の「語彙力」を駆使することが必要です。また、韻文としてのリズムを優先させるために語順なども錯綜していますので、「文法」の知識を使って分析的に読むことが必要です。また、その場であやふやな訳をしても意味は通じませんから、細心の注意を払って「翻訳」することが必要です。 専門に進む3年の時に、どこまで意味をすくいとり、表現できるか挑戦し、練習します。		
使用教材	テキスト	プリントで渡します。	
	参考文献	教室で指示します。	
評価方法	少人数のクラスになれば、授業中の成果で評価します。大きなクラスになるようであれば、前・後期試験を行います。		
受講者に対する要望など			

科 目 名	ドイツ語講読 (文学) I-2 (94年度以降) ドイツ語講読 I-10 (93年度以前)	担当者名	B. Ebert
-------	--	------	----------

講 義 の 目 標	In diesem Kurs soll vor allem die Lektüre längerer und komplexer Texte trainiert werden.	
講 義 概 要	Vor allem kursorisches Lesen soll vermittelt werden. Außerhalb des Unterrichts sollen die Studenten bestimmte Textabschnitte vorbereiten, die dann im Unterricht anhand von Arbeitsblättern genauer bearbeitet werden.	
使 用 教 材	テキスト	
	参 考 文 献	Kopien
評 価 方 法	Am Ende jedes Semesters gibt es einen Test, der neben aktiver Mitarbeit und regelmäßiger Teilnahme am Kurs die Grundlage für die Beurteilung der Leistungen bildet.	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど		

科目名	ドイツ文化史概論（94年度以降）	担当者名	山本 淳
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>ドイツ文化とは何か、ドイツ的なものとは何か、それはどのように生まれて（作られて）きたのか、それは何を生み出してきたのか、そして何故私たちはそれを学ぼうとしているのか、ということについて考える場を提供したい。</p> <p>本講義が、自分のテーマを見つける上での、あるいは深める上での、何らかの刺激になってくれればと願っている。</p>		
講義概要	<p>「ドイツ文化」とひと口に言っても、それはドイツ語という言葉を中心に置いて生きた（る）人々の知的・精神的営為、社会的活動の総体を指し、教科書的な知識の羅列を通して様々な事象を学ぶだけでは、その全体的な生き生きとした姿をつかまえることはできない。</p> <p>この講義では、一応ドイツ史、ドイツ文学史で用いられる時代区分に沿って話を進めるが、単なる知識の習得に終わることなく、時代時代の様相を典型的に表していると思われる文化的事象をトピックとしてできるだけ具体的にとり上げ、文化の生き生きとした姿に少しでも触れられるよう心がける。さらにそれぞれの事象に対し随時、ユートピアと現実とのズレや今日の問題との関連を意識した批判的な検討を加えていく。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。	
	参考文献	必要に応じ、その都度指示する。	
評価方法	講義で扱ったテーマに関する、前期2回、後期2回のレポートにより評価する。詳しい内容・書式・提出時期等は、授業中に指示する。		
受講者に対する要望など			

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義についての説明： 1)講義のねらい 2)講義の進め方 3)評価方法等。/ ドイツ文化に対するイメージに関するアンケート。
2	ナチズムとドイツ文化： 「詩人と思想家の国」が何故ヒトラーを生んだのか？
3	中世以前の文化と中世文化： 教会（僧侶）文化から宮廷（騎士）文化へ
4	宗教改革の時代Ⅰ
5	宗教改革の時代Ⅱ
6	三十年戦争とバロック文化
7	啓蒙の時代Ⅰ
8	啓蒙の時代Ⅱ
9	啓蒙の時代Ⅲ
10	フランス革命とドイツ観念論Ⅰ
11	フランス革命とドイツ観念論Ⅱ
12	（予備日）
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	ドイツ・ロマン派の運動Ⅰ
2	ドイツ・ロマン派の運動Ⅱ
3	芸術時代の終焉： ハイネ
4	近代文化批判： ニーチェ
5	モダニズム（芸術的モデルネ）Ⅰ
6	モダニズム（芸術的モデルネ）Ⅱ
7	ヴァイマル文化Ⅰ
8	ヴァイマル文化Ⅱ
9	ナチズムの時代Ⅰ
10	ナチズムの時代Ⅱ
11	戦後ドイツの知的歴史
12	1年間のまとめ
備考	

科目名	ドイツの思想 (94年度以降)	担当者名	松丸壽雄
	ドイツの哲学 (93年度以前)		

講義の目標	ドイツ語で書かれたテキストを実際に読みながら、ドイツの思想に触れ、自分勝手ではなく、論証し得るものの考え方を学んで行く。		
講義概要	Kari Jaspers が1964年にバイエルン放送のテレビ大学講座で13回にわたって話した「哲学の小さな学校」をテキストにして、それを読みながら、現実の世界に起こる問題を考える手がかりを得るように努める。従って、ただテキストの解釈だけでなく、現実の問題を分析しその答を探るようにするので、一緒に考える態度が求められる。人数次第だが、ゼミ形式を取りたい。		
使用教材	テキスト	Kari Jaspers: "Kleine Schule des philosophischen Denkens" (出版社: Piper, München, ISBN: 3-492-10054-6)	
	参考文献	講義中にその都度指示。	
評価方法	基本的には、テキスト講読の評価と年2回のレポートによる。しかし、人数が多い場合には筆記試験も考える。		
受講者に対する要望など	できればゼミ形式を取りたいので、テキストを読む意欲のある人で、かつ一緒に考えようとする気持ちの人が望ましい。		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要説明
2	I. 1. Zwei Ereignisse: 1919, 1945 の解釈と論議
3	2. Kosmos una Materie の解釈と論議
4	3. Die leblose Wüste des Kosmos und die Erdenwelt
5	4. Die durch die Naturwissenschaften entstandene geistige Situation
6	4. Zerrissenheit der Welt
7	4. Entzauberung der Welt
8	4. Wissenschaftsaberglaube
9	5. Thesen zum Weltwissen
10	今で読んできたものを振り返ってのディスカッション
11	まとめとディスカッション
12	II. 1. Das Bild der Geschichte heute
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	II. 2. Das Wunder der Geschichte im kosmischen Horizont
2	3. Geschichte ist nicht Fortsetzung des Naturgeschehens
3	4. Geschichtswissenschaft und deren Grenzen
4	4. Reale und heilige Geschichte
5	4. Das Ganze unerkennbar
6	5. Die gegenwärtige Situation und ihre Fragen
7	6. Bewußtsein des Selbstzerstörungsprozesses
8	7. Geschichte und Verantwortung
9	8. Überwindung der Geschichte
10	今まで読んできたものを振り返ってのディスカッション
11	まとめとディスカッション
12	総括
備考	

科目名	ドイツの音楽	担当者名	近衛秀健
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>18世紀以降、目ざましく発達した西洋音楽の歴史の中で中欧（ドイツ語圏）は特殊な地位を示めている。イタリー、フランス等先進国に追随するだけのこの地方に、室内楽という器楽合奏形態が芽生え、更に大規模に交響楽と拡大される。第2次大戦でこの地は廃墟と化し、その後音楽は電波や録音中心に国際化、地域の特殊性が失われてしまう。1700年から1950年ごろ迄のこの地の音楽について検証して行く。（ドイツと言う言葉の中にはオーストリア、チェコ等中欧圏は全部含まれるものと解する。）</p>		
講義概要	<p>音楽は何といっても音あってのものだから、無味な講義は音に関する興味を遠ざけるばかりである。LDやテープでこれを味わいながら進行していく。一般的に日本人はオペラに暗いし、音楽を理屈でとらえたがる傾向がある。音なしの講義で生半可な通人が輩出することは音楽家として一番危険な事なので、すべて音でこれを感性に訴えるよう心がけたい。音楽についてダイジェストは最も望ましくない接し方なので、必ず全曲聴くようにしたい。オペラの長さを考えると一幕一時間前後と考えるられるので、三幕ものなら三時限を使用する。</p>		
使用教材	テキスト	西洋音楽史稿（私版）プリント配布	
	参考文献	<p>ドイツはヨーロッパの中央にあり絶えずその周囲との干渉があった。全欧の音楽の流れを理解しないとこの音楽の本質は掴めない。このテキストを時間中に読む余裕はなかなかないが、持ち帰ってよく読んで下さい。</p>	
評価方法	<p>西洋文化の中でユニークな中欧の音楽を聞き、これについて自分の感性で考えたりレポートを書いてもらう。テーマは授業中に出題する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>音楽は耳で聞くものである。他人の迷惑になるような雑音、私語、又、中途での出入りは固くつつしんでもらいたい。</p>		

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	講義とVIDEO。講義は年代を追い、VIDEO はなるべく新しく入手したものを使用する。鑑賞と講義は一致しない。音楽は心を白紙の状態にして聞くことが一番大切なので。
2	VIDEO の所要時間に合わせ、講義を進行する。
3	”
4	”
5	”
6	”
7	”
8	”
9	”
10	”
11	”
12	”
備考	”

後期

週	主 要 テ ー マ
1	前期を引つぐ。
2	”
3	”
4	”
5	”
6	”
7	”
8	”
9	”
10	”
11	”
12	”
備考	

科目名	ドイツの美術	担当者名	片岡啓治
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>さまざまな造型活動を展開する総合的な場として建築を捉えなおすことを目的とする。内容は美術史的な様式論とは異なるものとなる。</p>	
講義概要	<p>上記の目的のためには、まず、建築が想像力（イマジネーション）から生まれることを理解する必要がある。その想像力が具体化される時、構造となる。その構造がもっとも端的にあらわれたものとして、中世のキリスト教聖堂をとりあげ、またその枠付の中での絵画・彫刻等の問題を論じる。さらにより身近な所からの理解を助けるため、日本の建築とその中で展開された造型活動をとりあげる。後期では、こうした総合的な造型活動を現代の工業社会の中で再生させようとしたバウハウスの問題をとりあげる。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	講義の中で適時紹介。
評価方法	<p>後期末に、レポートと出席状況をあわせて判断する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>レポート課題は継続的に講義をきいていないと理解できない。また出席状況が悪ければ評価の対象にならない。</p>	

年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	建築とイマジネーション。
2	全上。
3	宗教建築の意味。中世西ヨーロッパで、キリスト教大聖堂は、どういう神学的観念の具体化であったか。
4	全上。
5	教会堂の発生と由来。
6	全上。
7	ロマネスクとゴシックの教会堂は、どういう宗教的観念の具体化であったか。構造と様式の対比。
8	全上。
9	その構造的枠付の中で、絵画・彫刻・ステンドグラス等は、どういう意味をもったか。
10	構造という観点で、日本建築と対比し、かつ、その枠付の中で展開された日本美術の特質を論じる。
11	全上。
12	全上。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	総合的造型活動の場としての建築の再生を目指して—バウハウスの提起したもの。
2	バウハウス登場の歴史的・社会的背景。
3	全上。
4	全上。
5	20世紀初頭のヨーロッパ美術の状況。
6	鉄筋コンクリート建築の構造的特質。
7	バウハウスの教育内容。
8	全上。
9	全上。
10	バウハウスにおけるクレーとカンディンスキー。
11	全上。
12	まとめ。
備考	

科目名	ドイツの演劇	担当者名	越部 暹
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>講義は主としてドイツ現代劇を扱うが、演劇史や文学史を語ることに目標があるのではなく、時代の鏡とも言える演劇がどう時代に反応しうるかを今日の見地から、つまり今日を照射しうる〈道具／武器〉としての演劇について講じることに目標を置く。見通しにくい現実のなかで（進むべき未来に向けての）〈暗闇の提灯〉役を果たしてきたドイツや日本の演劇人たちのパイオニアの仕事に触れながら、彼らの視点や生き方が、聴講者たちの（未来に向けての）視点や生き方づくりにも一助となりうるように語るつもりである。</p>		
講義概要	<p>上記の視点や生き方を育む場としての教室では、教育というよりも多様な情報提供が主眼となる。（聴講者たちは積極的な授業参加で早く〈情報〉の取捨選択能力を、そして聴講者自身を取り巻く日常とドイツの現実とを相対化して——つまり講じられる内容を自身の問題として受け止める——思考方法を、身につけてほしい。）講義では、舞台や作品内へ観客や読者を引き込もうとするいわゆる〈感情移入〉劇について語られるのではなく、観劇や読書のあとの日常生活の視点や生き方を問題視するいわゆる〈感情異化〉的上演術やドラマツルギーについて講じられる。また、本質的には言語そのものではない〈ドラマ〉を醸成する前提事項としての言語の変質についても、多く語るつもりである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>適時コピー・プリントを配布する。（また、レポートの題材選びに役立つので、下記参考文献中1と2は購入がのぞましい。）</p>	
	参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手塚富雄／神品芳夫『増補・ドイツ文学案内』岩波文庫別冊 2. 三島憲一『戦後ドイツ』岩波新書（赤版） 3. 岩淵達治『プレヒト』清水書院、センチュリーブックス・64 4. 中村雄二郎『術語集』岩波新書 5. 丸山圭三郎『言葉と無意識』講談社現代新書 6. 越部暹「第2次大戦後のドイツ演劇」〔三省堂刊『ドイツハンドブック』内〕 	
評価方法	<p>前後期各1回のレポートと授業への参加度によって決定する。前期のレポートは後期第1週の授業時に教場で提出し、後期のレポートは最終授業時に〈試験〉の形で答案用紙に（予め下書きしたものを）清書し提出してもらう。レポートのテーマと書式は教場で詳述する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>教場は学ぶためにあるというよりも共に考える場である、と考え直してほしい。この要望はレポート内に必ず反映されるものである。従って、この反映のないレポートの筆者は〈授業への参加度〉が疑われ、大きく成績に影響することも承知してほしい。</p>		

前期

年間講義予定

週	主要テーマ
1	年間の講義についてのオリエンテーション：1) 成績評価を含む事務的事項の説明。2) 講義の受け方について（ノートをとるよりも思考の場にする）。3) 現代劇の諸問題（個人／社会、自己／他者、等）。
2	講義に関する（或いは講義では触れられぬ）参考文献の指示。（コピー・プリントで）詳しく説明しながら、受講者の〈授業への参加〉の姿勢を促していく。
3	ドラマとは何か？ ドラマトゥルギーの変遷について：現代劇の諸問題への理解を深めるための演劇史への回顧（アリストテレスの詩学、プレヒト劇、ベケット劇、別役実劇等）。
4	同上。アリストテレス的演劇（幕割劇）と非アリストテレス的演劇（場割劇）の区別等。
5	同上。プレヒトの叙事詩的演劇（非アリストテレス的演劇）の無標性、脱モラル化、両面価値化の方法。
6	プレヒトのテキスト（Ⅰ）：『三文オペラ』を中心に。K.ヴァイルの音楽も聴かせる。
7	プレヒトのテキスト（Ⅱ）：4大作品（『肝っ玉おっ母とその子供たち』『セチュアンの善人』『コーカサスの白墨の輪』『ガリレイの生涯』）について考える。
8	同上。プレヒトのテキスト（Ⅲ）：『ガリレイの生涯』のカーニバル場面を、バフチンの両面価値論に照合せながら分析する。
9	『肝っ玉おっ母とその子供たち』と『コーカサスの白墨の輪』のビデオを観る。
10	プレヒトの教育劇について。H.ミュラーの（教育劇の）継承方法にも触れる。
11	ミュラーのテキスト（Ⅰ）：『ホラティ人』『モーゼル』『ヴォロコラムスク幹線路』を中心に。
12	同上。前期レポート作成のための詳細な説明を行う。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	P.ヴァイスのテキスト（Ⅰ）：『マラー／サド』劇を中心に。ホルクハイマー／アドルノの『啓蒙の弁証法』にも触れる。
2	同上。ヴァイスのテキスト（Ⅱ）：記録演劇について。R.ホーホフト、H.キップハルト、D.フォルテらの仕事をも追う。（マクロの世界とマイクロの世界。）
3	P.ハントケのテキスト（Ⅰ）：『カスパー』劇を中心に、その演劇改革的な意義を拾う。
4	ハントケのテキスト（Ⅱ）：『ボーデン湖上の騎行』『ゴールキーパーの不安』等を扱う。新民衆劇（マイクロ世界の演劇）の先駆者としてのホルヴァートとフライサーの紹介。
5	ホルヴァートのテキスト：『ウィーンの森の物語』を中心に、ホルヴァートの民衆劇の意義を追う。
6	フライサーのテキスト：『インゴールシュタットの工兵隊』を中心に。新民衆劇の作家たちの紹介。
7	新民衆劇作家 M.シュペル、R.W.ファスビンダー、F.X.クレッツのテキスト：『ニーダーバイエルンの人狩り』『外人野郎』『内職』等の紹介。
8	F.デュレンマットの喜劇。M.ヴァルザーの意識の演劇。
9	T.ドルスト劇とB・シュトラウス劇：前者の清算されざる過去の提示法と、後者のアパシーとセラピーの演劇。マルクーゼ、フーコー、フロイト、ユングらの理論の助けも借りる。
10	同上。H.ミュラーのテキスト（Ⅱ）：『ハムレットマシーン』等の脱構築的な作品をドゥルーズ、ガタリ、レーマンらの理論の助けを借りて紹介する。
11	同上。シュトラウスの『大人も子供も』とミュラーの『ハムレットマシーン』のビデオを観る。
12	〈試験〉の形で教場でレポートを清書してもらい、提出を求める。
備考	

科目名	ドイツ思想・芸術各論（94年度以降） ドイツ文化特殊講義（93年度以前）	担当者名	中島悠爾
-----	---	------	------

講義の目標	<p>ヨーロッパ、特にドイツの音楽生活の中で、オペラの占める位置は大きい。今日ヨーロッパで最も多数の歌劇場を持ち、オペラの上演回数が最も多いがドイツであることは、意外に知られていない。</p> <p>そもそもオペラとは如何なる芸術形式なのか、日常の音楽生活の中でオペラ劇場に足を運ぶことの意味は、などを考察したい。</p>		
講義概要	<p>一つにはオペラの歴史を概観すること、一つにはドイツのオペラ・シーズンの中で、特定の時期に必ず上演される特定の曲目とは何か、そして何故その時期にその曲目なのか、などを、可能な限りビデオを利用しながら紹介する。その際、とかく忘れられがちな台本（リブレット）の持つ役割も検討するので、時にドイツ語のテキストを読むこともある。</p>		
使用教材	テキスト	適宜プリントで配布する。	
	参考文献	適宜指示する。	
評価方法	<p>前期・後期とも、講義に関連するドイツ語のテキスト（学年により異なる難易度の）を課題として与え、その要約と自分の Stellungnahme をレポートとして提出してもらう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>ビデオを見、音楽を聴いていればよいという安易な考えで聴講することのないように。解説書に書いてあるようなことはほとんど話題にしない。レポートの作成には規則的な聴講と学年相応のドイツ語力が必要。</p>		

年 間 講 義 予 定

1期

週	主 要 テ ー マ
1	オペラとは、どのような芸術形式か。 ドイツの音楽生活の中で占めるオペラの位置。
2	オペラの誕生。モンテヴェルディのオペラ。
3	オルフォイス伝説とオペラ。
4	ドイツ・オペラの誕生。ジング・シュピール。 モーツァルトのオペラ。
5	同上
6	同上
7	ベートーヴェンとオペラ。 《フィデーリオ》の失敗と成功。台本の問題。
8	同上
9	同上
10	いわゆるドイツの「国民オペラ」とは何か。 《魔弾の射手》。 ドイツ民俗学との関係。
11	同上
12	同上
備考	

2期

週	主 要 テ ー マ
1	ワーグナーの問題。 ワーグナーとドイツ中世。
2	同上
3	同上
4	同上
5	リヒャルト・シュトラウスのオペラ。 ホーフマンスタールとの協同作業。台本の問題。
6	同上
7	同上
8	クリスマスに上演されるオペラ [とバレエ]。 なぜ《ヘンゼルとグレーテル》なのか。
9	同上
10	同上
11	大みそかに上演される《こうもり》。
12	同上
備考	

科 目 名	ドイツ語講読（思想） I-1（94年度以降） ドイツ語講読 I-5（93年度以前）	担当者名	船 戸 満 之
-------	--	------	---------

講 義 の 目 標	1、2年次に習得したドイツ文法を確認しながら、哲学とはなにかを考えるための手引となる児童文学『ソフィーの世界』を読む。		
講 義 概 要	原書も日本語翻訳もベストセラーだそうだが、哲学史の紹介は、奇をてらわず、きわめてオーソドックスである。なぜ哲学を学ぶかを説明する導入部と、ソクラテスを紹介した章を原著から抜粋した教科書版の講読。		
使 用 教 材	テキスト	ヨースタイン・ゴルデル著『ソフィーの世界』郁文堂。	
	参 考 文 献	ヨースタイン・ゴルデル著、池田香代子訳『ソフィーの世界』NHK 出版。 各種の西洋哲学史入門書。	
評 価 方 法	授業中の訳読 50% 前後期末テスト 50%（テキストから独立した基礎的文法問題を含む）。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	翻訳を通読してください。内容に興味がもてなければ、ドイツ語読解力のレベルアップにも効果が期待できません。よく考えてから履習登録を。		

科目名	ドイツ語講読（思想） I-2（94年度以降） ドイツ語講読 I-7（93年度以前）	担当者名	渡部重美
-----	--	------	------

講義の目標	ドイツ語の読解力の養成と、与えられたテーマについて自分の意見をまとめて発表する練習。		
講義概要	哲学上の重要なテーマ（「神」、「幸福」、「自由」、「愛」、「死」など）について、様々な哲学者の考え方を紹介しながら、場合によってはマンガを使って簡単にまとめた下記テキストを読み、そのテーマについて皆で議論してゆく。		
使用教材	テキスト	Denis Huisman : <i>Philosophie für Einsteiger</i> . Aus dem Französischen von Ludwig Gehlen und Ute Penner. Rowohlt. 1983.	
	参考文献	必要があればその都度指示する。	
評価方法	年二回のレポート（前期末、および後期末）と普通の授業に対する貢献度によって評価する。 なお、レポートの枚数は原稿用紙8～10枚（3200～4000字）を予定している。		
受講者に対する要望など	受講希望者は必ず一回目の授業から出席すること（テキストの扱い方、さらに詳しい授業の進め方について話すので）。		

科目名	ドイツ語講読（芸術） I-1（94年度以降） ドイツ語講読 I-3（93年度以前）	担当者名	酒井 府
-----	--	------	------

講義の目標	<p>二〇世紀の芸術を理解するうえで、一〇〇年前の十九世紀末の芸術に始まる近代芸術を理解することが不可欠であろう。そうすると、キュービズム、フォーヴィズム、後期印象派、表現主義、未来派、超現実主義等の特徴を把握する必要がある。その場合、これらの芸術を担った画家達の言葉を直接聞くことが、まさに重要であることは言う迄もない。</p> <p>従って、この講読では、上述の画家達の書き残したものをドイツ語で読むことによって、この世紀の芸術理解の一助としたい。二〇世紀の世紀末を迎えた現在、やはり、世紀末の画家と言葉は非常に興味深い。</p>		
講義概要	<p>講義の形式は、プリントしたテキストを配り、学生一人一人にあらかじめ和訳すべきところを指摘し、その後、私が和訳し、出来る限り、スムーズに先へ進みたい。アトランダムに和訳を指名することによって、進行がおくれるのを避けたいからである。理解しがたい箇所については説明するつもりである。</p>		
使用教材	テキスト	Walter Hess : <i>Dokumente zum Verständnis der modernen Malerei</i>	
	参考文献	授業の際に指摘することもある。	
評価方法	<p>年二回の期末試験と出席状況等を考慮して評価したい。やはり、最低でも遅刻などを除いて、三分の二は出席して欲しい。授業中騒ぐような学生には評価が低くなることもある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>上述の評価方法に関して記述したことを参考にして欲しい。</p>		

科目名	ドイツ語講読（芸術） I—2 （94年度以降）	担当者名	K. O. Beißwenger
	ドイツ語講読 I—9 （93年度以前）		

講義の目標	<p>Im Kurs sollen verschiedene Techniken des Lesens geschult werden. Anhand der Texte soll ein Einblick in einen Teil der deutschen (europäischen) Musikgeschichte und des heutigen kulturellen Lebens in Deutschland ermöglicht werden.</p>	
講義概要	<p>Texte zur Musik</p> <p>Wir lesen verschiedene Texte zum Thema Musik. Wir beginnen mit kurzen einfachen Texten und wollen im Laufe des Jahres so viel Erfahrung sammeln, daß wir Ausschnitte aus autobiographischen oder literarischen Werken lesen können. Mögliche Themen: Texte über Komponisten oder Kompositionen, Gedanken über die Musik, Musikeranekdoten, Künstlerbiographien, literarische Werke zum Thema Musik. Die Auswahl der Lesetexte erfolgt nach Absprache mit den Kursteilnehmern.</p>	
使用教材	テキスト	Kopien
	参考文献	
評価方法	Schriftlicher Test am Ende der beiden Semester	
受講者に対する要望など	Aktive, regelmäßige Teilnahme	

科目名	ドイツ史概論 (94年度以降)	担当者名	黒田 多美子
-----	-----------------	------	--------

講義の目標	<p>歴史を学ぶにあたって重要なのは、単に過去の出来事や人名を暗記することではなく、現在の問題にどれだけ結びつけて考えられるかという事です。この講義では、多くの学生にとって苦痛であったと思われる“受験のための暗記科目”というイメージを破り、歴史を知ることのおもしろさを見つけることが目標です。</p>		
講義概要	<p>ドイツという国家が人々の間に意識され、形成されていく 19 世紀初頭から、第二帝制期、第一次世界大戦、ヴァイマル共和国期を経て、ナチス体制のもとで第二次世界大戦へと突入していく過程を追います。そしてそのようなドイツの“過去”が、第二次世界大戦後、現在に至るまで、どのように意識され、問題となっているのかを、日本との比較を念頭において検討してみます。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	プリント配布	
評価方法	前期はレポート、後期は未定。		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	歴史を学ぶ事の意味：ドイツの学校では歴史をどのように学んでいるのでしょうか。日本の歴史教育との比較から歴史を学ぶことの意味を考えてみます。
2	ドイツにおける過去の克服：ナチズムという負の遺産を、ドイツではどのように克服しようとしてきたのか、また現在しようとしているかを探ります。
3	ビデオ（“夜と霧”他）を見た上で、私達にとって過去の克服とはどのようなことを意味しているのか、話し合ってみます。
4	フィッシャー論争と歴史家論争：1960年代と1980年代に生じた、ドイツ史の連続性と特殊性をめぐる議論、およびその政治的背景について紹介します。
5	DeutschlandとReich：ドイツ史を理解する上で重要な概念であるこのふたつの単語が、どのような歴史的背景のもとに使われてきたかを紹介します。
6	国民意識とナショナリズム：ドイツ人が自己をドイツ人として意識するようになったのはいつ頃からでしょう。またその国民意識はどう変化したでしょう。
7	1848年：三月革命と総括される一連の民主化運動を概観します。民主主義者と自由主義者、プロイセンとオーストリアを比較します。
8	ドイツ帝国の成立：上からの統一が、その後のドイツにどのような影響を与えたのか、国民の統合という観点から考察します。
9	労働運動と社会主義：現在のドイツを規定する「社会的国家」という概念の基盤を形成した社会主義運動について理解を深めます。
10	第一次世界大戦と総力戦：総力戦という言葉が初めて使われた第一次世界大戦の国民への影響について考えてみます。
11	第一次世界大戦と反戦・平和運動：各国が戦争へと国民を動員していく中で、反戦を掲げた勢力はどう反応していたのでしょうか。
12	レポートの書き方：前期の課題となるレポートのテーマと書き方について説明します。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	ビデオ：19世紀末から第一次世界大戦にかけての時期をあつかったビデオを見ます。
2	1918年11月革命：帝制から共和制への移行が、どのような過程で行われたかを中心に、共和国の政治的方向を規定した要因を探ります。
3	ヴェルサイユ条約と戦争責任問題：第一次世界大戦後、ドイツ国民はこの戦争とその結果であるヴェルサイユ体制をどうとらえていたのでしょうか。
4	同上
5	ヴァイマル共和国の理念と現実：当時最も民主的といわれた憲法のもとに発足した共和国がわずか15年という短い期間に崩壊した原因を探ってみます。
6	同上
7	ナチズム運動の理念と現実：ナチズム運動が国民をひきつけた要因と、国民のナチ体制への組織化を検討します。
8	同上
9	ナチ体制に対する受容と抵抗：ナチズムを支持した人々と、反対した人々の立場を検討します。日本の戦前の国民生活も考慮にいれて考えてみて下さい。
10	ビデオ：
11	侵略への道：自国中心のイデオロギーのもとに、他国を侵略することがどういうことか、日本の場合も含めて考えてみたいと思います。
12	まとめと討論：過去の克服という問題が、歴史的過去だけでなく現在とも密接に結びついている事を前提に、一年間の授業を振り返り討議します。
備考	

科目名	ドイツの歴史	担当者名	古田善文
-----	--------	------	------

講義の目標	現代史重視の観点から、主に 20 世紀ドイツ史を検討する。講義では、ドイツ現代史にかかわる基礎知識の習得の他、歴史的な思考方法の育成にも力点をおく。		
講義概要	<p>年間を通じて、講義では以下の論点を重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治家の視点（＝政治史・外交史）のみから歴史を論じるのではなく、近年盛んになりつつある「日常生活史」・「社会史」的視点を含めてドイツ史総体を理解する。 ・AA 諸国もふくめた世界史的枠組みのなかでドイツ現代史・ヨーロッパ現代史の流れを理解する。 ・ここでいう「ドイツ」という概念には、狭義のドイツだけではなく、オーストリアも含めることとする。つまり、「ドイツ＝オーストリア関係史」を講義をつらぬく横軸のひとつに設定し、広義の意味での「ドイツ」近代 100 年の歩みを検討する。 		
使用教材	テキスト		
	参考文献	そのつど指示する。原則として講義レジュメを毎回配布する予定。	
評価方法	昨年と同様、前期はレポート、後期は期末テストを実施。また、評価に際しては出席も重視する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

期 題	主 要 テ ー マ
1	現代史を学ぶ意義
2	プロイセンとハプスブルク
3	帝国主義とナショナリズム
4	第一次世界大戦（その一）
5	第一次世界大戦（その二）
6	ドイツ革命・オーストリア革命
7	ヴェルサイユの講和
8	ファシズム——理論と実際
9	ヴァイマル共和国
10	ヒトラー政権の誕生
11	ナチス統治下の民衆像
12	前期まとめ（予備）
備考	

期 題	主 要 テ ー マ
1	戦争への道——独逸合邦前後
2	第二次世界大戦（その一）——経過
3	第二次世界大戦（その二）——加害と抵抗
4	第二次世界大戦（その三）——ヤルタとポツダム
5	占領下のドイツ・オーストリア——対日占領との比較
6	過去の克服
7	冷たい戦争とドイツ分断（その一）——国内的要因
8	冷たい戦争とドイツ分断（その二）——国際的要因
9	二つのドイツ国家
10	オーストリアの選択——永世中立
11	欧州新時代のなかで
12	後期のまとめ（予備）
備考	

科目名	ドイツの社会・事情 (94年度以降) ドイツ事情 (93年度以前)	担当者名	H. H. Gätke
-----	--------------------------------------	------	-------------

講義の目標	Die Teilnehmer an diesem Kurs sollen sich mit den Grundlagen des politischen Systems der Bundesrepublik Deutschland vertraut machen,	
講義概要	<p>Nach Vorgabe einiger relevanter geografischer Daten und grundlegender politischer Begriffe wird das politische System der Bundesrepublik Deutschland von seiner Entstehung über seinen Aufbau bis zu seiner Funktion behandelt. Die Verfassung, die staatlichen Organe sowie die staatliche Grundordnung kommen dabei ebenso zur Sprache wie der Föderalismus, die Parteien und das Wahlsystem.</p> <p>Zu Beginn jedes Unterrichts müssen zwei oder drei Teilnehmer über neueste Ereignisse in der Welt aus Politik und Wirtschaft berichten.</p>	
使用教材	テキスト	Vervielfältigte Kopien werden während des Semesters ausgeteilt
	参考文献	<p>a) Bundeszentrale für politische Bildung (Hrsg.) : <i>Informationen zur politischen Bildung</i></p> <p>b) K. Sontheimer : <i>Grundzüge des politischen Systems der BRD</i></p> <p>c) K. v. Beyme : <i>Das politische System der BRD nach der Vereinigung</i></p> <p>d) Botschaft der BRD : <i>Tatsachen über Deutschland</i></p>
評価方法	<p>a) regelmäßige Teilnahme am Unterricht</p> <p>b) zwei Semesterabschlußtests</p> <p>c) aktive Unterrichtsbeteiligung, z. B. Kurzreferate und Nachrichten vortragen</p>	
受講者に対する要望など	Kommunikationssprache ist Deutsch, d. h. für die erfolgreiche Teilnahme an diesem Kurs sind fortgeschrittene Sprachkenntnisse erforderlich.	

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	Politische Geografie der BRD : Bundesländer, Landeshauptstädte
2	Geografische Lage der BRD in Europa : Nachbarländer und deren Hauptstädte
3	Sprachfamilien in Europa ; Statistikvergleich Deutschland-Japan
4	Politische Begriffe : Staat-Nation-Volk
5	Politische Systeme, Staatsformen : Monarchie-Republik, Parlamentarismus, Totalitarismus etc.
6	Historischer Überblick über deutsche Einheitsbestrebungen bis zur Gegenwart
7	Verfassungen : Entstehung-Sinn-Funktion des Grundgesetzes
8	Grundrechte, Bürgerrechte, Gewaltenteilung
9	Regierungssystem der BRD : Verfassungsorgane vom Staatsoberhaupt bis zu den Länderparlamenten
10	Staatsorgane : Organisation, Aufgaben, Funktion (Staatsoberhaupt, Bundestag, Bundesregierung, Bundesverfassungsgericht)
11	Funktion und Aufgaben der Staatsorgane : Bundesversammlung, Bundesrat, Länderparlamente, Länderregierungen
12	Abschlußgespräche / Zusammenfassung des I.Semesters;Fragestunde, Wiederholung, Prüfungsvorbereitung
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	Besprechung der Testergebnisse des 1. Semesters, Vorstellung des Unterrichtsprogramms des 2. Semesters
2	Staatliche Grundordnung der BRD : Republik-parlamentarische Demokratie
3	Föderalismus der BRD (Bundesstaat) : historischer Überblick, Funktion, Vor-und Nachteile
4	Gesetzgebungszuständigkeiten des Bundes und der Bundesländer
5	Rechtsstaat / Sozialstaat : verfassungsrechtliche Bedeutung und Bezug zum Staatsbürger
6	Parteiensystem der BRD : historischer Überblick, politische Orientierung, Fraktionen im Bundestag
7	Wahlrecht und Wahlsystem der BRD I : Mehrheits-und Verhältniswahl
8	Wahlrecht und Wahlsystem der BRD II : Auflösung des Bundestages, konstruktives Mißtrauensvotum, Grundmandatsklausel, Überhangmandate
9	Gesetzgebungsverfahren der BRD
10	Die Besetzung und Teilung Deutschlands und seine Einigung
11	Deutschland und die EU ; Deutschland und die Vereinten Nationen
12	Abschlußgespräch, Zusammenfassung des 2. Semesters, Fragestunde, Wiederholung, Prüfungsvorbereitung
備考	

科目名	ドイツの地誌・民俗（94年度以降）	担当者名	杉山好
	ドイツの民俗（93年度以前）		

講義の目標	<p>今年度は、キリスト教の教会暦を背景としたドイツの年間歳事を取上げる予定。その際に、</p> <p>1. ゲルマン古代とキリスト教の出会い、 2. 音楽、ことに教会暦にちなんで制作されたバッハ・カンタータ作品にも注目していきたい。したがって民俗学的事象を通じての、キリスト教的ドイツ文化史、ないし思想史への展望をも目指す。</p>		
講義概要	<p>原始キリスト教の起原とされる「復活」の問題から始めて、復活節、昇天節、聖霊降臨節、洗礼者ヨハネの祝日、マリア訪問の祝日……というふうに、教会暦の重要な節目をたどって、それがどのような民俗的事象と結びつきドイツの民衆的共有財として定着していったかを考察する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>主としてバッハのカンタータ歌詞対訳を用いる予定であるが、必要に応じてプリントで配布する。</p>	
	参考文献	<p>樋口隆一『ドイツ音楽歳事記——民謡とバッハのカンタータで綴る』（講談社1987年）。邦訳またはドイツ語訳『聖書』</p>	
評価方法	<p>前期は指定課題および任意テーマによりレポート（それぞれ400字5枚程度）を夏休み明けに提出、後期は学期試験期間に筆記試験を行ない、両者を合わせて通年成績評価とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回プリントを配布するので、受取りそこなわないよう出席に注意すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

期

	主 要 テ ー マ
1	ドイツの民俗とはなにかの概要を入門的に解説。参考文献などを指示し、次回からのプリント資料を配布。
	復活節の問題を3～4週にわたって取上げ、復活節にちなむバッハの作品を歌詞対訳で聞く。
	昇天節の問題を取上げる。あとは前回同様。
	聖霊降臨節の問題を3週にあたって取上げる。あとは前回同様。
1	「洗礼者ヨハネの祝日」(6月24日)、「聖母マリヤのエリサベツ訪問の祝日」(7月2日)などを取上げ、さらにマリヤに関しては他の祝日(「潔めの祝日」2月2日、「お告げの祝日」(3月25日)などもあわせて取上げる。
0	
1	
2	
音	

期

	主 要 テ ー マ
1	「ミカエルの祝日」(9月29日)の問題を取上げ、これにちなむバッハのカンタータを何曲か聞いて、信仰の戦いと地上的な争いや戦争の違いがなんであるかを考察する。
2	
3	
4	宗教改革記念日(10月31日)の問題を中心として、宗教改革とドイツの民俗との関係を考え、バッハのカンタータを聞く。
5	
6	「三位一体節」とその後のふつうの日曜日に教会暦でどのようなテーマが扱われるかを考え、その中の目ぼしいバッハのカンタータ作品を取上げる。
7	
8	
9	教会暦の最後近くに置かれる「万霊節」や「死者記念の日曜日」の問題を取上げ、ブラームスの《ドイツ語レクイエム》の一部を聞く。
10	「再臨待望」から「待降節」そして「クリスマス」へかけての年末の問題を取上げ、それぞれにちなむバッハのカンタータを聞く。
11	
12	
備	

考

科目名	ドイツの政治・対外関係（94年度以降） ドイツの政治（93年度以前）	担当者名	深谷満雄
-----	---------------------------------------	------	------

講義の目標	第二次大戦後のドイツの内政的発展および国際的地位の変遷について正しい理解を与える。		
講義概要	大戦後占領国によって分割統治され、45年後になってやっと再統一されたドイツの今日までの軌跡を辿り、ドイツ政治の今後の方向を占う。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. H.K.ルップ著、深谷訳『現代ドイツ政治史』、有斐閣、1986年 2. C.クレスマン著、石田・木戸訳『戦後ドイツ史 1945—1955』、未来社、1995年。 	
評価方法	原則として学年末に行う論文形式の筆記試験による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要と授業方針について説明する。
2	とくに西側占領地帯（ないし旧西ドイツ）における戦後変革および民主化の問題について全般的な考察を加える。
3	同上。
4	同上。
5	同上。
6	同上。
7	ドイツ統一および再軍備問題に関する SPD（社会民主党）の態度について見る。
8	西ドイツに主権回復と NATO 加盟をもたらしたパリ協定について述べる。
9	1958年11月ソ連によりベルリン自由市化が提唱され、1961年8月「ベルリンの壁」が構築されるに至った経緯について述べる。
10	同上。
11	同上。
12	レポートの課題、提出期限等について説明する。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	西ドイツに1968年導入された緊急事態法体制とこれに関連した国内の動きを問題にする。
2	同上。
3	同上。
4	同上。
5	同上。
6	「基本条約」締結（1972年）後の旧東ドイツの発展について述べる。
7	1990年9月の「ドイツ問題の最終的規制に関する条約」で一応の決着を見た「オーデル・ナイセ国境」問題について回顧する。
8	同上。
9	同上。
10	1990年10月に実現を見た東西ドイツ統一に伴う今日の問題について考察する。
11	EU（＝欧州連合）との関係を含む、統一ドイツの今後の国際関係について展望する。
12	一年間の授業について「まとめ」を行い、定期試験に関し、出題方針を明らかにする。
備考	

科目名	ドイツの経済	担当者名	大島 通 義
-----	--------	------	--------

講義の目標	<p>ドイツは、第二次世界大戦後、東西に分断され、両ドイツが統一を成し遂げたのは、1989年にベルリンの壁が崩壊して後のことである。西独はこの間、急速な経済発展を遂げて、ヨーロッパにおける経済統合の中心的位置を占めるようになった。他方、東独は旧ソ連圏のなかでは「優等生」といわれる立場にあった。統合後のドイツは、大幅に書き換えられたヨーロッパの政治と経済の地理的な配置のなかで、その進路を模索しつつある。このような戦後史を踏まえて、また、できるだけ日本や他の国々との比較においてドイツの経済の現状を概観することを試みる。</p>	
講義概要	<p>この講義では、最初にドイツとは何かという問題から始めて、風土や地理、経済資源の配置などを概観したのち、1871年の国家統一以来のドイツの経済の歴史を説明する（講義予定の(1)～(3)）。そのあと、ドイツの経済全体についての見通しを得るのに必要な概念を説明し、統計資料によりドイツ経済の現状の解説をする（講義予定の(4)～(5)）。以上が前期での講義として予定している内容である。後期は、ドイツ経済の特徴をなすと考えられる個々の経済制度について、その現状や課題を明らかにすることを試みる（講義予定の(6)～(9)）。最後に第二次世界大戦後にドイツやフランスが中心となって進めてきた欧州統合運動のなかでのドイツの役割と今後の問題について説明する。</p>	
使用教材	テキスト	テキストは、とくには指定しない。
	参考文献	<p>西川正雄編『もっと知りたいドイツ』弘文堂、1992年 成瀬治・黒川康・伊東孝之『ドイツ現代史』山川出版社、1987年。 木谷勤・望田幸男編『ドイツ近代史』ミネルヴァ書房、1992年。 アルフレート・グロセール（山本他訳）『ドイツ総決算 1945年以降のドイツ現代史』社会思想社、1981年。 大西健夫編『ドイツの経済』早稲田大学出版部、1992年。 奥村・柳田・清水・森田編『データ世界経済』東大出版会、1990年。</p>
評価方法	<p>前・後期末に筆記試験をおこなう。ただし、履修者が少ない場合には、別の方法をとることがありうる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>統計表やグラフを見ながら考えることができる学生諸君の参加を期待する。</p>	

期

週	主 要 テ ー マ
1	(1) ドイツとはどのような国か
2	(a) 「言語圏」としてのドイツと「国家」としてのドイツ
3	(b) 「経済圏」としてのドイツ
4	(2) 日本とドイツの対比, その関係
5	(a) 風土, 地理的条件についての日独比較
6	(b) 最近一世紀における日独交流の歴史
7	(3) 1871年の国家統一以来の政治・経済体制の発展——概観
8	(a) 経済の「近代化」と「工業化」——第二帝政以来の発展
9	(b) 「福祉国家の成立」ないし「社会化の進展」——ヴァイマル共和制以降の発展
10	(c) 「国際化」のなかでの分裂と統合——第三帝国と戦後世界の展開
11	(4) ドイツの「経済体制」
12	(a) 「経済体制」とは何か
13	(b) 旧西ドイツにおける「社会的市場経済」
14	(c) 「計画経済」体制下の旧東ドイツ
15	(5) 統計で見るドイツ経済
16	(a) 国民経済における政府・企業・家計
17	(b) 経済活動の構成
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	
74	
75	
76	
77	
78	
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	
87	
88	
89	
90	
91	
92	
93	
94	
95	
96	
97	
98	
99	
100	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	(6) 「福祉国家ドイツ」の制度とその現状
2	(a) 「福祉国家」のドイツ型
3	(b) 統一後の「福祉国家」の現状と課題
4	(7) ドイツにおける企業と国家
5	(a) 経済発展における企業と国家
6	(b) 「民営化」の現状とその特質
7	(8) 企業とそこで働く人たち
8	(a) 企業組織
9	(b) 労働者の社会的地位
10	(c) 社会における男・女・家族
11	(9) ドイツ通貨「マルク」の歴史と現状
12	(10) ヨーロッパのなかでのドイツ経済
13	(a) 欧州統合における旧西独の役割
14	(b) 欧州統合の現状とドイツ経済
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	
74	
75	
76	
77	
78	
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	
87	
88	
89	
90	
91	
92	
93	
94	
95	
96	
97	
98	
99	
100	
備考	

科目名	ドイツの法律	担当者名	市川 須美子
-----	--------	------	--------

講義の目標	ドイツ法では、ドイツの法制度のしくみの概要を公法を中心に紹介し、日本法と比較しながら、それぞれの法制度の特徴を理解することを目標とする。		
講義概要	基本法を頂点とするドイツの法体系と裁判制度の理解の上に各論的に、地方自治制度、行政法、民法（親子法）、社会法、教育法分野を比較法的に検討する。ドイツ法の実態にふれるために、憲法判例、行政判例の和訳も行なう。		
使用教材	テキスト	特に指定しない	
	参考文献	・村上・マルチュケ著『ドイツ法入門』有斐閣	
評価方法	前期 レポート 後期 試験		
受講者に対する要望など	ドイツ法文献を読むので、一定程度のドイツ語力と、法学入門程度の法学の基礎的素養を必要とする。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の目標と予定 進め方の説明
2	ドイツ法と日本法、その歴史的關係
3	ドイツの法体系、ドイツ統一の基本法、連邦法と州法、法律と条例
4	基本法(1) 憲法原理と基本権
5	基本法(2) 国家機関
6	裁判制度(1) 概要と特徴
7	裁判制度(2) 法曹養成制度、裁判官論
8	ドイツの憲法判例(1)
9	ドイツの憲法判例(2)
10	ドイツの地方自治(1) 憲法的保障と機能的自治論
11	ドイツの地方自治(2) 具体的しくみ
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ドイツ行政法とフランス行政法 オットーマイヤー行政法
2	ワイマール期の行政法
3	現代行政法 行政手続法と国家責任法
4	ドイツ行政判例(1)
5	ドイツ行政判例(2)
6	親子法とその改革
7	社会法(1) 社会法の体系と法典化
8	社会法(2) 少年福祉法改革
9	社会法(3) 介護保険法とその問題点
10	ドイツ教育法と日本教育法(1)
11	ドイツ教育法と日本教育法(2)
12	ドイツ法の新しい問題 ヨーロッパ法とドイツ法
備考	

科目名	ドイツ語講読（歴史） I-1（94年度以降） ドイツ語講読 I-4（93年度以前）	担当者名	鳥海金郎
-----	--	------	------

講義の目標	<p>この科目の目標は、以下の二点です。</p> <p>①独文和訳の能力を高めること</p> <p>②オーストリア史に対する理解を深めること</p>		
講義概要	<p>1996年は、「オーストリア」“Österreich”誕生1000年にあたります。西暦996年の古文書に、古高ドイツ語の“Ostarrichi”という名称が、初めて記録されました。また「オーストリア」“Austria”はラテン語で、12世紀中葉以降用いられています。（「オーストラリア」“Australia, Australien”ではありませんので念のため。）</p> <p>この長い歴史を持つオーストリアについては、文学、音楽などの分野を除けば、政治、経済、民族問題あるいは建築、彫刻、絵画等々、まだ未開拓の研究領域が多々あります。この科目は、ドイツとは一味違うオーストリアに、特に関心をもつ学生向けのもので、二年生までに習得した文法知識を駆使して、その歴史の理解を深めることを目指します。</p>		
使用教材	テキスト	<p>“Österreichs Geschichte”（プリント：授業中配布）</p> <p>堀内明編『ウィーン・その歴史と文化』（郁文堂）（書店販売）</p>	
	参考文献	<p>授業中に「参考文献一覧」を配布します。</p>	
評価方法	<p>前期・後期定期試験および随時実施する中間テストの総合点により評価します。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	ドイツ語講読（歴史） I-2（94年度以降） ドイツ語講読 I-8（93年度以前）	担当者名	I. Albrecht
-----	--	------	-------------

講義の目標	Informationen zur österreichischen Gegenwart Wortschatzerweiterung ; Erarbeitung sprachlicher Strukturen zur Meinungsäußerung		
講義概要	Themen, die je nach Interesse der Teilnehmer bearbeitet werden können, sind z. B. Kultur, Medien, Sport, Vorurteile, Sozialstaat, Hochschulpolitik, Österreich und die europäische Einigung.		
使用教材	テキスト	Dusek u.a. <i>Zeitgeschichte im Aufriß. Österreich seit 1918</i> . Sieder u.a. <i>Österreich 1945—1995</i> .	
	参考文献	Die Texte werden kopiert zur Verfügung gestellt.	
評価方法	Schriftliche Tests am Ende jedes Semesters.		
受講者に対する要望など			

科目名	ドイツ語講読（社会） I-1（94年度以降） ドイツ語講読 I-1（93年度以前）	担当者名	大串 紀代子
-----	--	------	--------

講義の目標	現代の生きているドイツ語を学習すると同時に、現代社会の抱える様々な問題に知識と関心を深める。		
講義概要	ドイツで発行されている Spiegel 紙の最新号から各種の記事を読む。		
使用教材	テキスト	Spiegel 紙コピー	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は次の3点による。</p> <p>①出席し、かつ予習したものを発表する。</p> <p>②定期試験の成績</p> <p>③随時のレポート</p>		
受講者に対する要望など	出席及び発表を重視する。		

科目名	ドイツ語講読（社会） I-2（94年度以降） ドイツ語講読 I-6（93年度以前）	担当者名	本多喜三郎
-----	--	------	-------

講義の目標	ドイツ語の読解力の養成とオーストリアに対する理解を深めることを目的とする。	
講義概要	<p>テキストはオーストリア出身の2人のドイツ語教師が日本の大学生向けに書き下ろしたもので、日本とオーストリアとの文化比較が様々に試みられている。</p> <p>本テキストの読了後は、アメリカで発行されているオーディオ・マガジン Schau ins Land の1995～1996年分からオーストリアの話題を抜粋して読む予定。</p>	
使用教材	テキスト	Barbara EBERT/Martin KUBACZEK : <i>Auch Österreich ist eine Insel? — Ein Kulturvergleich in Anekdoten</i>
	参考文献	
評価方法	年2回の定期試験の結果、出席状況、授業での発表回数などを総合的に判断して評価する。	
受講者に対する要望など		

科目名	ドイツ語講読 II-1 (93年度以前)	担当者名	井村行子
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>講義とテキストを読む作業を通じて、ヨーロッパのアラブ・イスラム研究の歴史をたどることによって、ヨーロッパとアラブ・イスラム世界（中東世界）との関係を歴史的に検討する。ヨーロッパ中心主義（その裏返しがりエンタリズム）の非が問題とされてすでに久しい。今日ではヨーロッパの研究が、他の地域の研究に優先する重要性があると主張する人はもはや少ないであろう。しかし、だからといって単に地域研究に解消すれば問題は解決するのであるか。ヨーロッパと中東世界の関係を知りたいという私の問いは、そのような疑問に発している。</p>	
講義概要	<p>「アラブの大征服」によって、ヨーロッパはイスラムに遭遇した。これによってフランク王国は地中海から隔絶されたとされるが、両者は予想される以上に密接な関係をその後も維持しつづけた。十字軍遠征は中世農業革命によって力をつけたヨーロッパが、民衆宗教運動の高まりのなかで巻き返しに出たものと解釈されるが、イスラム世界の文物が西欧に流入する結果をもたらした。西欧中世の成長を文化の面で表すのが「12世紀ルネサンス」であるが、古代ギリシアの遺産を継承発展させたのはイスラム世界であった。その後中世西欧は急速に衰退に向かうが、「大航海時代」を経て起死回生を遂げる。それはユーラシア大陸の辺境に位置する後進的な地域が自己を中心に世界を再編していく過程であった。</p>	
使用教材	テキスト	<p>適当な文献のコピーによる。</p>
	参考文献	<p>ワット『地中海世界のイスラム—ヨーロッパとの出会い』三木亘訳（筑摩書房、1984）、サザーン『ヨーロッパとイスラム世界』鈴木利章訳（岩波書店、1980）、フンケ『アラビア文化の遺産』高尾利数訳（みすず書房、1982）、サイード『オリエンタリズム』今沢紀子訳（平凡社、1986）など。</p>
評価方法	<p>学期末の筆記試験による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>世界史の基本的な知識をもっていることが望ましい。</p>	

科目名	ドイツ語講読 II-2 (93年度以前)	担当者名	亀谷敬昭
-----	----------------------	------	------

講義の目標	イギリスの作家、アラン・パーマーの書いた『ヴィルヘルム2世皇帝』を教材とする。ビスマルクの後を受け継いだこの皇帝は、拡張政策を採り、大ドイツ帝国の建設を目指して進んだ。ドイツ帝国の建設後は、もはや武力によるよりも外交を主な手段としてドイツ帝国の維持に努めたビスマルクと違った方向である。パーマーの作品はこの皇帝と周辺の人物との人間関係に重点を置いた著作で、ドイツ人の書いたものと異なる面白さを持っている。		
講義概要	平易なドイツ語なので、なるべく量を多く読むことにするが、しかし一面きちんとした独文和訳を行うことを目標とする。		
使用教材	テキスト	Alan Palmer: "Kaiser Wilhelm II."	
	参考文献		
評価方法	前期および後期の定期試験による他、平常点も重視する		
受講者に対する要望など			

科目名	ドイツ語講読 II-3 (93年度以前)	担当者名	下川 浩
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>基本的には、ドイツ語専門文献の日本語への翻訳を通じ、ドイツ語・日本語・現実世界の構造的相違を理解する（させる）ことが目標である。</p> <p>特殊的には、言行為論および社会言語学の文献を読むことを通じ、社会的相互行為の一形態としての言行為について考える（させる）ことを目標とする。</p>	
講義概要	<p>下記教材中のⅢ. Kommunikatives Handeln とⅣ. Soziale Aspekte の2章には、それぞれ10節、8節あるので、1節に1～2回をかけることを目標にしつつ、順次読みかつ議論する。</p> <p>それぞれの節はテーマごとに分かれているので、1節終わるごとに、その節のテーマについて議論する。こうした行為自体が言語的コミュニケーションであるから、このコミュニケーションについても考えていく。</p>	
使用教材	テキスト	<p><i>Lexikon der Germanistischen Linguistik</i>. Hrsg. von Althaus, H.P. et al. Tübingen (Max Niemeyer) 1980 (2. Aufl.). Bd. 2.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>基本的には、受講者の業績にもとづく自己評価をしてもらう。</p>	
受講者に対する要望など	<p>個別言語それぞれの構造と現実世界の構造とは異なっているので、ドイツ語を日本語に訳すさいに、自然な日本語になるよう努力してもらいたい。</p>	

科目名	ドイツ語講読 II-4 (93年度以前)	担当者名	辻本勝好
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>今回はまず手始めにニーチェ思想入門ということでドイツ語で書かれたニーチェ (1844—1900) の比較的短めの伝記の講読を通じてこの詩人哲学者の思想形成の過程を解説してから、代表作『ツァラトゥストラ』第一部の原典講読によって、「神は死んだ」というスローガンのもとにドイツ、ひいてはヨーロッパの思想家たちに大きな波紋を投げかけ、しかも反形而上学の立場から脱構築を目指すドゥルーズやデリダなどの現代思想の源流ともなったニーチェ思想の底流にあるものを今日的な身近な問題として再浮上させてみたい。</p>		
講義概要	<p>ニーチェは『ツァラトゥストラ』(1883—85) のなかで、「神の死」以後のキリスト教的市民道徳の崩壊と人間存在の意義喪失によって招来されたニヒリズムの世紀を見据えつつ、ニヒリズムの克服のための指針及びキリスト教的世界観の代替物としてメシアならぬ「超人」待望論と「等しいものの永遠回帰」説を提唱したが、このことから明らかなように、この作品は全体的に見て聖書の世界観のパロディーになっていて、しかも個別的には、彼の理想的分身ツァラトゥストラが新たな価値創造のために道徳を含め言葉・意味・論理といった従来は一切の価値を破壊して行く点で、言語に基づく客観的真理の非妥当性を主張する現今の形而上学批判のための貴重な材料をも提供しているのである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>ロベルト・シンチンゲル『ニーチェ』(第三書房)／『ツァラトゥストラ』の原典は講読に必要な部分のみプリント配布する。</p>	
	参考文献	<p>詳しくは追って指示するが、とりあえず翻訳のある単行書としては、カール・ヤスパーズ『ニーチェ』(創元社)、カール・レーヴィット『ニーチェの哲学』(岩波現代叢書)、オイゲン・フィンク『(ニーチェ全集別巻) ニーチェの哲学』(理想社)、ジル・ドゥルーズ『ニーチェと哲学』(国文社)などが挙げられる。</p>	
評価方法	<p>出席状況と平常の学習態度を加味したうえ、レポートと年2回の筆記試験を併用する予定。</p>		
受講者に対する要望など	<p>ニーチェの『ツァラトゥストラ』を読んだことのない学生は、名訳の誉れ高い岩波文庫あたりで通読し、自分なりに問題意識を持ったうえでドイツ語と格闘してもらいたい。</p>		

科目名	ドイツ語講読 II-5 (93年度以前)	担当者名	林 部 圭 一
-----	----------------------	------	---------

講義の目標	ドイツ語の文章が正確に読めるようになる。		
講義概要	<p>ドイツの第二テレビのシリーズ「現代史の証言」で放映された Marcel Reich-Ranicki の体験談が本になっています。この対談集を読みます。Reich-Ranicki はポーランド生まれのユダヤ人。子どものときにドイツに来て、ベルリンの高校を卒業します。ヒトラー政権下で大学に行けず、ポーランドに追放されて、ナチスがポーランドを征服するとワルシャワのユダヤ人強制収容所に入れられました。ユダヤ人大量絶滅が始まると、収容所からの冒険的逃亡に成功し、終戦まで隠れ住み、戦後はポーランド共産党の情報将校となったが、共産党に決別してからは文芸評論家として立ち、機会をつかんで西ドイツに逃げました。いまではドイツで最も有名な文芸評論家として活躍しています。彼はこの対談で波瀾万丈の自分の半生を語っています。</p>		
使用教材	テキスト	Marcel Reich-Ranicki 著 <i>"Zwischen Diktatur und Literatur, ein Gespräch mit Joachim Fest"</i> (Fischer Taschenbuch) (コピーを配布する)	
	参考文献		
評価方法	年2回の定期試験におけるテストの結果による。		
受講者に対する要望など	就職で大変でしょうが、できるだけ休まずに出席すること。		

科目名	ドイツ語講読 II-6 (93年度以前)	担当者名	前田和美
-----	----------------------	------	------

講義の目標	明瞭な表現で書かれたドイツ語の知的な散文を正確に理解することを目標とする。	
講義概要	ドイツに関係する材料を取り扱うが、出来るだけ一般的なテーマの文章を教材とする予定。例えば歴史、教育、社会状況など。一学年のうちに複数のテーマを選ぶ可能性もある。	
使用教材	テキスト	学期初めに指示。
	参考文献	
評価方法	平常及び学期末試験による。	
受講者に対する要望など	授業に対する積極的態度。	

科目名	ドイツ語講読 II-7 (93年度以前)	担当者名	山中康子
-----	----------------------	------	------

講義の目標	現代オーストリアの様々な問題を通してヨーロッパの中でオーストリアという国のもつ問題と中立国の存在意義を探る。日本との関わりについても探って行きたい。		
講義概要	歴史、教育、大学制度、労働問題などの各章を読みながらオーストリアという国の光と影を身近なものにする。		
使用教材	テキスト	『オーストリアってどんな国』 朝日出版	
	参考文献		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前後期の定期試験の評価による 2. 年間2回のレポート提出 		
受講者に対する要望など			

科目名	ドイツ語学講読 II (93年度以前)	担当者名	伊藤 眞
-----	---------------------	------	------

講義の目標	平易なドイツ語で書かれたドイツ語学に関する原書を読み進めながら、ドイツ語学の基本的知識を習得し、同時にドイツ語学の原書の文体に慣れることを目標とする。		
講義概要	ドイツ語学（音韻論、形態論、意味論、語彙論、統語論など）の分野の中から、語彙論について書かれた原書を精読しながら、ドイツ語の語（Wort）を対照とする各研究分野（Lexikographie, Wortbildung, Wortbedeutung, Phraseologie usw.）についての基本的概念や術語についての理解を深め、さらにそれぞれの分野における問題点について考察する。		
使用教材	テキスト	Ingrid Kühn : <i>Lexikologie. Eine Einführung</i> , Niemeyer 1994. (プリント)	
	参考文献		
評価方法	未定		
受講者に対する要望など	ある程度のドイツ語の文章を読むための文法知識を、少なくとも備えていること。		

科目名	ドイツ文学講読 II (93年度以前)	担当者名	関 楠 生
-----	---------------------	------	-------

講義の目標	<p>筆者が何を言おうとしているのかを、各文について正確に読み取ること。それには前後の状況把握も欠かすことはできない。日本語の訳をつけながら、自分でその意味がよく分からないというようなことがあってはならない。とりわけ、接続法の用法には注意が肝要である。</p>		
講義概要	<p>1991年モーツァルト没後200年という年に、モーツァルト関係の本が数多く出版され、この教科書版もその一つだが、原著の刊行はそれよりずっと早く、200年記念をあてこんだものではない。モーツァルトの死については書名の示すように謎が多く、さまざまな説が立てられている。著者はここで、彼自身の解決を示すのではなく、大部の記録資料から判断の材料を抜き出して読者に提供しているのである。なお、18世紀ウィーン的生活環境にも注意を払って読んでいきたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>E. W. Heine : <i>Wer ermordete Mozart?</i> 日本語名『モーツァルト・死の謎』同学社版</p>	
	参考文献	<p>ヒルデスハイマーの『モーツァルト』には日本語訳がある。渡辺健訳、白水社。</p>	
評価方法	<p>前・後期試験のほか、必ず何度かは訳読の番に当たって、当方の質問に答えてもらう。</p>		
受講者に対する要望など	<p>しっかり予習をすること。欠席しないこと。</p>		

科目名	英語Ⅳ（93年度以前）	担当者名	金子久男
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>この世に存在するあらゆるものは、テキストの「はしがき」にある如く、単に実用品として科学的解明の対象となるだけではない。あらゆるものが神話・伝説を通して深い精神的意味を持つようになる。主として、西洋文化の二つの源流であるギリシャ・ローマ神話と聖書とを拠り所として、文学・美術に現れる象徴（シンボル）の意味を探りたい。</p> <p>かくして、平凡な事物の中に、多彩な意味を見出すことは、人生を豊かにすることと信じる。</p>	
講義概要	<p>地・水・火・風の四大をはじめ、目・耳・手・足などの人体各部、金・銀・石などの鉱物、犬・猫などの動物、カラスやフクロウなどの鳥、百合・薔薇などの花、その他、日常平凡な事物を取り上げる。引用されている英詩や、聖書の言葉も、プリントで取り上げて鑑賞したい。</p> <p>ほぼ毎回、復習を兼ねて、単語のテストを行います。</p>	
使用教材	テキスト	Jana Garai 著『シンボルの本』 <i>The Book of Symbols</i> 太陽社
	参考文献	<p>アト・ド・フリース『イメージ・シンボル事典』大修館</p> <p>バーバラ・ウォーカー『神話・伝承事典』大修館</p> <p>その他、教室で適宜紹介します。</p>
評価方法	<p>前期・後期試験。</p> <p>平常点、出席点。</p>	
受講者に対する要望など	<p>予習として、大きめの辞典を一所懸命に引くこと。</p>	

科目名	英会話Ⅱ（93年度以前）	担当者名	D. R. Kogge
-----	--------------	------	-------------

講義の目標	This course is designed to give students an opportunity to increase their vocabulary, fluency, and confidence in speaking English.	
講義概要	The course is organized around a small-group, student-centered discussion format. A wide range of topics, including contemporary trends and current events, will be presented.	
使用教材	テキスト	Printed materials
	参考文献	
評価方法	Final grades will be based on attendance, participation, homework assignments, and oral presentations.	
受講者に対する要望など		